

霊界物語の眞実  
言霊の眞実  
第一卷

英語の比とないの使い方	四八音の濃縮還元発酵	誤解	推敲	單純明快	四八音	用語を推敲	表田の使い方	ザの真実	英語の真実	後、三十九卷の真実	序文	目次	表紙	目次
えいご ひ とない の つか かた	よ は ね の う し ゅ く か ん げ ん は つ こ う	ご かい	すい こう	たん じ ゅ ん め い かい	よ は ね	よう ご すい こう	ひ ょ う た つ か かた	し ん じ つ	えい ご し ん じ つ	あと さん じ ゅ う き ゅ う か ん し ん じ つ	じ ょ ぶ ん	も く じ	ひ ょ う し	も く じ

55	50	46	42	38	34	27	22	12	11	6	5	2	1
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	---	---

漢語の奥義

漢語の仕組み

無いと夢の運用

仏教と漢語の運用

霊界物語と宗教

場力と異星の真実

天体と時空

大脳が証明する言霊

隠身言霊は言葉か言霊か

言霊の成り立ち

言霊、仮名

表田のアザムとの関連

無い袖は振れぬ

行動の奥義

表田のエリア88

108 107 100 96 92 86 80 76 74 73 67 65 63 60 59

火水かみの御用ごよう

火水かみの御用ごようのエリア 8 8

当時とうじの生活せいかつ

ヒヒロカネとエリア 8 8

ヒヒロカネとミトロカエシ

後記こうき

125 121 117 114 112 110

序文

後、三十九巻の真実

靈界物語は百二十巻で完成すると王仁はいう。しかし王仁は八十一巻までしか編纂していない。とつすると物語は後、三十九巻いまだに編纂されていないことになる。型の仕組みや旗の仕組みをなす登場人物の再来の行動が現在を決める。王仁は型を出した。だがそれは型が出た時点で過去であり、未来は今、作られる。戦前と冷戦の時代が示す型が、今にかかると。未解決のお筆先のいう一厘の仕組み、良の金神のいう言霊の仕組みを残して。

三王教には型の仕組みが働き旗の仕組みで錦の旗を織るのが靈界物語である。靈界物語には靈主体従から山河草木に、二人のミチヒコが存在する。三十五万年前の「道路」彦の道彦と、一万二千年前の「三千」彦の三千彦の二人だ。靈主体従から山河草木は道彦が活躍した三十五万年前と三千彦が活躍した一万二千年前に分けられる。戦前が道彦が活躍した時代で、冷戦の時代が三千彦が活躍した世界だ。

日の出神道彦が活躍した三十五万年前の靈界物語の舞台はおもにヨーロッパや中東とロシアでユーラシア大陸が中心である。三千彦が活躍した一万二千年前の舞台はヨーロッパから中東から極東と北米や南米やアフリカやオーストラリアなど地球全体が舞台の中心で靈界物語の舞台は全地球に広がる。

王仁が編纂した靈界物語は八十一巻で百二十巻ではないし、王仁は戦前の日本で活躍した。戦前の王仁は三十五万年前の日の出神の道彦の再来である。残りの三十九巻は戦後の現在で編纂するしかない。日本で起きたことが世界に波及して日本に帰るといふ。戦前、靈界物語が編纂されたのだからそれが戦後現れるとしたらどういふふうになる。靈界物語

には宇宙真相が書いてある。靈界から宇宙で地球というふうになる。

型の仕組みと旗の仕組みから考えて推論すると、戦前、道彦の再来の王仁がユーラシア大陸を舞台に靈界を蘊蓄したのだから、戦後、冷戦の時代に三千彦の再来のアダムスキーが、北米大陸を舞台に地球全体で宇宙を蘊蓄したのだ。

戦前は国祖御隠退以前であり、敗戦は御隠退で、戦後の冷戦は大国彦と常世彦の相克である。そこに大洪水と大戦争の型が働く。冷戦の終結は大洪水の再来でウル教が衰退しバラモン教が広まることになる。冷戦の時代は国祖御隠退以降の大国彦と常世彦の相克であると同時に三千彦の時代でもあった。その冷戦の終結以後、今まさにリアルタイムで、二度目の天之岩戸開きが進行する。

そしてそれが永遠の今、現在の我我にかかるのだ。今が二度目の天之岩戸開きの時代。それは国祖御隠退再臨神話である。ここで重要なのは国祖御隠退は二代目常世彦や常世姫やウル教の大幹部が兇党界の容れ物になって、暴走したから起きたという事実だ。これは一体、何が型になったのであろうか。国祖は忍耐して我慢していた。何を我慢したか。自由行動である。なにをしてもよいということ禁止した。

それで何を失うか。常世彦や常世姫はウルル山での百日の断水断食の末に、フラフラになつて兇党界の容れ物にされる。栄養を取らねば餓死する。国祖が自由行動を我慢させた結果、地球人は重要な何かを拒否する事態が生じた。重要な何かとは、森羅万象である。地球人は天然自然を受け入れないようになつていった。

時空間の背後には真空が在る。宇宙の物理構造は無が爆発して出来た。無の真空はバキュームであり真空は我我より常に相対的に高位にある。しかも真空の物理はつねに相対的

に完全なるが故に真空から我我は完全無欠の情報やエネルギーを常に供給される。

自由行動を抑えたために、時空を超えた呼吸ができない。このままでは地球人は衰弱し兇党界に取り憑かれ兇党界の容れ物にされてしまう。高天原は、十分に栄養を取り休養し英気を養うようにする。

断水断食は兇党界の悪巧みである。国常立命が完全無欠を受け入れない型が出たのだ。兇党界の容れ物になった常世彦や常世姫や大幹部は、塩長彦の審神で正氣に戻るが完全に悪霊を退散できず次第に兇党界につけこまれ、ついに兇党界の容れ物になり国祖を御隠退に追い込む。

断食で兇党界の容れ物になるまでは、常世彦も常世姫も幹部も性根はまともであつた。だから国祖に御隠退を迫れない。しかし悪魔の容れ物になってから、ついにまともを失い暴走した。このことは国祖が地球人に真理真相を拒否させ続ければ地球人のまともは衰退しついに悪魔の容れ物にされてしまう。今、地球は餓死寸前の常世彦常世姫大幹部であり大戦争が起これば兇党界に取り憑かれる。塩長彦の審神で正氣に戻ったように、贖罪の火の玉が落ちてきて偉大なる浄化の日が訪れても自然発生した邪氣が地球を汚染する。

汚染された地球では、次第に兇党界が暴れ出し悪が善を滅ぼし悪意が充滿する。宇宙は高天原で時空間から愛を動力源にして宇宙船が航行する。だが妖幻坊は汚染した地球人に欲望をたぎらせ、そのはけ口を宇宙に向け、兇党界を動力源にした悪意を剥き出しにして航行する宇宙戦艦を建造し宇宙戦争をはじめるつもりだ。

二度目の天之岩戸開きが戦争であれば地球は破滅するのだ。第三次世界大戦で死滅か、あるいは贖罪の大彗星が落ちて来て、一時的に良くなっても巨大破滅の引金にしかかなら

い。地球人がガミラス帝国や白色彗星帝国やディンギル帝国や暗黒星団帝国のようになつて侵略戦争をはじめめるか、地球人同士で同士打ちして死滅か、そんなところだろう。

何をしてもいいとは天然自然と一体であり、好き勝手気ままとは本来完全無欠と誤差がないである。森羅万象と一体化しない自由行動は自由行動ではない。権利の行使は真理の発動であるはずだ。完全完成を示唆しない権利の行使を自由行動という三五教は間違っている。間違つた自由行動を批判して、本来森羅万象とうまくつきあうことである自由行動を我慢させるといふ、天之岩戸開きをしてはいけなはずだ。

天之岩戸開きは平和でなければならぬ。国祖に真相を受け入れるのを我慢する忍耐をやめてもらえるかが地球の命運を決する。現在まで我慢が継続し地球の真相は完全に拒否されている。このままでは戦争が避けられない。日本の国祖の型を担当する御方に真相を受け入れてもらえるかが勝負だ。

ならば真空と時空間の間で情報やエネルギーの遣り取りが、円滑に出来さえすればよいのだ。霊界物語にはそのことが出ている。型と旗の仕組みで錦の旗を織るとはそういうことだ。リアルに一目で実感できるように解き明かす。誰でも簡単に出来る技法はこういうのだ。こうだよと地球人に合点がいかないなら無駄である。真空と時空間の相互作用が生で感覚出来るのだ。

触覚は真空と時空間の接点であるというからには、触覚が誰にでもあるからには相互作用があれば、誰でも完全なる生命の活ける喜びが炸裂するということだ。それが天之岩戸開きである。地球が平和になるのは難しくない。ミロクの世は簡単になる。霊界物語や古典にはその技法が書いてある。太古からの伝説と神話の通りなら、その通りにすれば生天国

が炸裂しなければならぬ。ならそれを証明しよう。  
道彦と王仁や三千彦とアダムスキーが大成奉還しなかつたのではない。大成奉還を認めないように画策する敵のスパイや獅子身中の虫に阻まれたのだ。敵のスパイや獅子身中の虫の醸す疑心暗鬼を乗り越えたところに一厘の仕組みが在る。一厘の仕組みは言霊の仕組みである。言霊の仕組みは外国語の仕組みである。他国語の仕組みが在る。多国語の仕組みである。田んぼの田の字を描く田国語の仕組みである。常世会議の道彦の密書の真実である。日本人が田国語の言霊に気が付いた時、天之岩戸が開く。

英語の真実

## ザの眞実

三五教にない隱身言靈とは、今の受験勉強にはないが外国人が普通に使う意味が出てない他国にはある言葉だ。それはただの英語の「アとザ」だ。受験英語の「アとザ」はグーグルやフリーのホームページの辞書で検索すると日本の受験勉強しか通じない、海外では使えない受験英語の「アとザ」の意味が出てくる。引くと「ア」は不定冠詞と出る。ヨーロッパ諸語にみられる冠詞であり名詞が不特定の事物をあらわす場合に前に添加される。そして「ザ」は定冠詞であり名詞に冠して、特定、既知などの意を表すと出てくる。

受験勉強で日本人は義務教育で中学から学校で受験英語を習うが、「アとザ」の本来の使い方が出てこない。とりわけ口語では絶対的な意味を持つ「ア」が否定で「ザ」が肯定という英語の大前提がない。英語は「アとザ」の取り方一つでどちらにもなる。どこの言語でも「アとザ」同じ使い方があるのに、ここを踏まえず受験英語を初め、受験言語は出来ているから外国人に響きを買う。当然、ただの英語は受験英語と全く別だ。

義務教育で大体どこの教科書でも最初に「ビー動詞」を習う。「アイ アムと、デイス イズ」を用いた太郎君と花子さんの自己紹介、私は日本からきた男の子ですの「アイ アム アボーイ フロム ジャパン」、これは剣ですの「デイス イズ ア ソード」、私は日本から来た女の子ですの「アイ アム ア ガール フロム ジャパン」、これはペンですの「デイス イズ ア ペン」である。

受験英語では、自分は日本から来ました、ということだが、実際にアメリカで使うと、亜米利加人に、自分は日本人ではありません、これはペンではありません、これは刃物で

じゅけんえいご  
受験英語

ア a	ふてい かんし 不定冠詞 かさん めいし たんすうけい 可算名詞の単数形 に付ける。
ザ t h e	てい かんし 定冠詞 なんらかの 意味で げんてい めいし 限定された名詞の まえ 前につけられる。
	じゅけんえいご ア 受験英語には a と ザ ひつようせんたく t h e で必要選択 ふようはいじょ いとてき 不要排除を意図的 いと かんけい に意図する関係は ない。

ただ えいご  
只の英語

ア a	ひてい 否定 アンチやアंकや アンのように反対 はんたい や否定を示す。 ひてい しめ
ザ t h e	こうてい 肯定 ほんらい 本来そのものを示 せつきよくてきこうてい す積極的肯定であ そうぞうてき つか り創造的に使う。
	ただ えいご ア 只の英語では a と ザ にきよくいつつ t h e は二極一対 であり 肯定と否定 こうてい ひてい という対極を示し たいきよく しめ 必要と不要を識別 ひつよう ふよう しきべつ する。

はありませんと言っていることになる。こゝ、なんというか、受験勉強の教科書が出来ていく過程で、英語を日本語に訳した人に発想がなかったというよりは、多国語で比にする多国語を比にするという発想が縄文終焉以後の日本語になかったから当然受験日本語にはない。

本来当たり前であるべき姿の言語には、あらゆるすべてに相似して比にするという用語や技法が構築されていくはずだ。各言語はそれを切磋琢磨し独自の文化文明を築いた。その中で日本人の受験勉強日本語だけが取り残されている。それが他国にあつて三五教に言霊だ。国常立命には始めからここが死角であつたから、中東のイスラエルや、極東の日本では衰退したが、大國彦や常世彦はそこを突いてきたから、アメリカや中国やロシアやインドには始めから伝統として息づいていて今でも残つた。

いろは四十八文字はアウンの三文字に収斂する。日本語も最初は仮名は、あいうえお、あうえおい、あえいおう、あおうえいで、あから始まる。英語もアルファベットはエイで始まりエイはアのことだ。大抵の言語では母音は、アイウエオ五大母音だ。五大母音の中で最初に発音する母音は大抵あだ。

流転のアのあは、あ、仕舞つたとか、あ、そうだったのかというだろう。日本語のあとという生理的音声基底思念の実感では、流動的で極まりなく流転するとか、これからどういうふうに展開していくのか余談が許さないというような意味合いがある。英語でも実感でアは、反転するとか否定に使う。受験英語のアは違い、アを不定冠詞とかいうのは、英語を初めほかのどの言語にもある使われ方を日本人が分からないから作つた造語だ。

その反対の断定は、ザだ。定冠詞という分類はジャパン イングリッシュの文法だ。例

にきよくいつつい    つか    かた  
二極一対の使い方

ア a	あんだんて
アン an アンチ ant アंक anc	あっそうですか
ア    アライブ a alive ア    ローン a loan	あらゆるすべて
ザ the	ありのまま そのまま そのもの
	あらゆるすべて の <sup>なか</sup> からあんだ んてや、あっそ う <sup>つか</sup> ですかを使い <sup>すいこう</sup> 推敲 <sup>ひつよう</sup> し必要と、 <sup>ふよう</sup> 不要 <sup>しきべつ</sup> を識別しあ りのままそのも の <sup>とくてい</sup> を特定する。

えば映画のタイトルで、ザ 何とか、というのがあったとする。どういうふうに使われるかという、そのイメージは、何とかそのものというふうに使われている。それは名は体を表すという意味であって、それ、そのものであり、そのまんまであるということだ。

あんだんてとか、あつそうですかであり、ありのままとか、あるがままにである。これは今の現代日本語でもビジョンは通じるイメージだ。言語の根幹をなす音声基底思念は今でも世界共通で、五大母音から連想するビジョンはどこでも似ているのだ。

アは複数の中の一個という不定冠詞の使い方は英語では普段使わない。しかし英語のアにも複数の中の一個という使い方があつた。それはア アライブやア ローンの使い方だ。英語であらゆるすべてを現す時、あらゆるすべてといつても所詮、文字や発音で表現しているに過ぎない。実際に宇宙の地平線を越えてバキウムまでも越えているのではない。あらゆるすべてと表現してその表現を超えているという表現がある。だからア アライブやア ローンという使い方になる。ザ アライブという宇宙創造を行うという意味になりかねない。これは嘘だから使わない。ザ ローンは役に立たないから使わない。

アとザは基本的に不一致であり、ほぼ相対的な関係になっている。英語の奥義はア アライブとザ アライブの違いである。アとザは完全な対称構造になっている。すべてすべてといつても人間がいつているに過ぎず。そのものでない。だからザ アライブという嘘吐きである。国祖は言霊をザ アライブといったのに対し大國彦はア アライブといった。言霊の意味はア アライブやア ローンであつてザ アライブではない。

マドンナはライク ア バージンを歌っているのであつてライク ザ バージンと歌っていない。ライク ア バージンの歌詞自体は、てやんで、べらぼうめ調だ。マドンナの

じゅげんえいご  
受験英語

ザ ペン the pen	ペンである
ア ペン a pen	ペンである
アザ <sup>ふめいりょう</sup> 不明瞭	

ただ えいご  
只の英語

ザ ペン the pen	ペンである
ア ペン a pen	ペンでない
アザ <sup>めいりょう</sup> 明瞭 <sup>にきょくいつつい</sup> の二極一対の 比 <sup>ひ</sup> の和 <sup>わ</sup>	

ような反体制志向の反権力志向がライク ザ バージンを歌わないだろう。ア バージンだからいけいけ！ バカオンナを好きになれとかやれやれ男を好きになれということだ。受験英語では、一人称二人称三人称や、主格や所有格や目的格の活用を習う。だがアメリカやイギリスではアイ マイ ミーとかいう並べ方はしない。通常使わないからだ。アとザの英語と受験英語の違いがアイ マイ ミーによく出ている。アイ マイ ミーを、曖昧MEとか考える。受験英語が英語を理解してないからこういうのだ。アイ マイを曖昧と考えるとそれはアだ。しかし自分が分からないと英語では考えない。自分はザであると考えからんだ。

英語文化圏の人が日本の学校の受験英語の授業を受ければアイ マイ ミーと聞いて、普段使わないと思うだろう。本来、アイマイミーは主格所有格目的格の変化で在って、アイム ザ マイセルフ アイ アム ザ ミーだよ、アイム ア マイセルフ アイ アム ア ミーの曖昧MEではないよといえは通じるはずだ。

それをそういう発想をせず英語文化圏の人が思わず仰反る翻訳をする。日本人は悪魔を調理しません。怪物オクトパスは船をも、沈める海の悪魔、妖怪海坊主だ。縁日で留学生にタコ焼きを英語でオクトパス クツキング ボールと説明したら思わず仰反り、日本人は悪魔を焼いて丸めて食うのかと、英語文化圏の人は思うだろう。

日本語のタコに当たる単語は英語にはない。海にいる軟体生物としか言わない。ア オクトパス クツキング ボール。ザ ジャパニーズ ネーム タコ焼きと言って、パクつくと、食べれば、あー、これは日本語でタコ焼きという食い物か。悪魔を焼いて丸めた食い物ではないかと認識する。

えいご にほんご ちが  
英語と日本語の違い

じゅけんえいご 受験英語	ただ えいご 只の英語
あいまい ミー 曖昧ME	しゅかく 主格 しよゆうかく 所有格 もくてきかく 目的格
ふめいりよう アザ不明瞭	めいりよう アザ明瞭

じゅけんえいご ひ  
受験英語の比

アイム ア マイ セルフ I'm a my self アイ アム ア ミー I am a me
ウィアー ア アワ セルフ We're a our self ウィ アー ア アス we are a us
ユアー ア ユア セルフ You're a your self ユー アー ア ユー you are a you
ユアー ア ユアーズ セルフ You're a yours self ユー アー ア ユー you are a you
ヒーズ ア ヒズ セルフ He's a his self ヒー イズ ア ヒム he is a him
シーズ ア ハー セルフ She's a her self シー イズ ア ハー she is a her
ゼイアー ア ゼア セルフ They're a their self ゼイ アー ア ゼム they are a them

かつようひょう  
活用表

アイ I	マイ my	ミー me
ウィ we	アワ our	アス us
ユー you	ユア your	ユー you
ユー you	ユアーズ yours	ユー you
ヒー he	ヒズ his	ヒム him
シー she	ハー her	ハー her
ゼイ they	ゼア their	ゼム them

ただ えいご ひ  
只の英語の比

アイム ザ マイ セルフ I'm the my self アイ アム ザ ミー I am the me
ウィアー ザ アワ セルフ We're the our self ウィ アー ザ アス we are the us
ユアー ザ ユア セルフ You're the your self ユー アー ザ ユー you are the you
ユアー ザ ユアーズ セルフ You're the yours self ユー アー ザ ユー you are the you
ヒーズ ザ ヒズ セルフ He's the his self ヒー イズ ザ ヒム he is the him
シーズ ザ ハー セルフ She's the her self シー イズ ザ ハー she is the her
ゼイアー ザ ゼア セルフ They're the their self ゼイ アー ザ ゼム they are the them

真意に気が付かない日本人の、ジャパン イングリッシュ 受験英語では、アイ アム  
ア ボーイ フロム ジャパンというのは私は日本から来た男であるということになる。  
デイス イズ ア ペンはこれはペンでありますということになる。ところが英語文化圏  
の人は、私は日本人の男ではないに聞こえて、これはペンではないと解釈する。彼らは、  
我我にはあんたが日本人の男に見えるが、ではあんたは誰、これはペンに見えるが、ペン  
でないならこれは何、と聞いてくるだろう。  
真意を伝えよう。本来日本人男性が自己紹介する時にザ アイ アム ザ ボーイ フ  
ロム ジャパン、ア アイ アム ア ボーイ フロム ジャパンといえ、私は日本人  
の男性だ、日本から来た男性ではないという、紹介の仕方は間違いだ、と通じる。筆を持  
ち出してザ デイス イズ ザ ペン、ア デイス イズ ア ペンというならば、これ  
は筆記用具だ、筆記用具ではないと紹介するのは間違いだと言っていると英語を使う相手  
の人は理解する。

話せない先生が、話せない生徒を生むのだ。受験日本語の欠点の問題を起こす。日本人  
は誰も気が付かない。気づいた人もいるだろうが、多くの日本人は欠点に気が付かない。  
受験英語の弊害が言われて久しい。だが何故、受験英語が通じないのか。学校で受験英語  
を教える先生も英語で外人と話せない。話せない人が先生では話せる生徒は育たない。と  
ころが日本人は本腰入れて話せるような授業をしない。

その理由はただの英語と受験日本語が全く違うからだ。それは仮名だけとですますアイ  
ウエオ調和漢外来語混淆文の底は、ですますアイウエオ調和漢外来語混淆文の発想だ。ところが今の日本語に

アザ <sup>ふめいりよう</sup> 不明瞭	アザ <sup>めいりよう</sup> 明瞭
受験 <sup>じゅけん</sup> 英語 <sup>えいご</sup> 受験 <sup>じゅけん</sup> に <sup>に</sup> ほんご 受験 <sup>じゅけん</sup> 日本語	只 <sup>ただ</sup> の <sup>えいご</sup> 英語 只 <sup>ただ</sup> に <sup>に</sup> ほんご 只 <sup>ただ</sup> の <sup>ほんご</sup> 日本語
<p>受験<sup>じゅけん</sup>漢語<sup>かんご</sup>英語<sup>えいご</sup>日本語<sup>にほんご</sup>が、  <sup>でき</sup>出来<sup>い</sup>た<sup>ま</sup>が<sup>い</sup>今<sup>いま</sup>の<sup>に</sup>日本<sup>ほん</sup>には、  只<sup>ただ</sup>の<sup>かんご</sup>漢語<sup>えいご</sup>英語<sup>にほんご</sup>日本語<sup>にほんご</sup>がな  い。今<sup>いま</sup>の<sup>に</sup>日本人<sup>ほんじん</sup>が<sup>つか</sup>使う<sup>つか</sup>の  は、受験<sup>じゅけん</sup>漢語<sup>かんご</sup>英語<sup>えいご</sup>日本語<sup>にほんご</sup>  だ。只<sup>ただ</sup>の<sup>かんご</sup>漢語<sup>えいご</sup>英語<sup>にほんご</sup>日本語<sup>にほんご</sup>  の<sup>かくりつ</sup>確立<sup>い</sup>こそ、一厘<sup>いちりん</sup>の<sup>し</sup>仕組<sup>く</sup>  みだ。</p>	

はない仮名の論理で英語は成り立っている。英語を話せる前に日本人は仮名に頭を下げて仮名の使い方を教わるようになる。

## 表田の使い方

比で推敲する場合は田圃の田の字の形の、行列表枘を使うから表田である。実際に使えば上の反対は下であり下の反対は上である。上であれば下でない。下であれば上でない。これは正直である。それが英語や漢語の基礎だ。日本語と英語を比にしてまとめる。そうすると、上であるは、ザ ハイで、下でないは、ア ローとかになる。

これは命題の關係から、上であるは下でないであり、上でないは下であるになる。

上の逆は上。上の逆の逆は上。であるの逆はでない。であるの逆の逆はである。

下の逆は下。下の逆の逆は下。でないの逆はである。でないの逆の逆はでない。

上の裏は下。上の裏の裏は上。であるの裏はである。であるの裏の裏はである。

下の裏は上。下の裏の裏は下。でないの裏はでない。でないの裏の裏はでない。

仮に歯抜けが「はてな」とすれば、一部が欠けているとき全体から推論できる。

上でない、下でない、

上である、はてな、

である。この表田の比の歯抜けが「はてな」であるから「はてな」が分からないとすれば

上と下に、であるとならないの組み合わせを考えると、

上である、上でない、下である、下でない、であり、

めいだい  
命題

うえ  
上で  
ある

ぎやく  
逆

うえ  
上で  
ない

たい たい  
対 対

うら  
裏

ぐう  
遇

うら  
裏

たい たい  
対 対

した  
下で  
ある

ぎやく  
逆

した  
下で  
ない

にほんご えいご ひ  
日本語と英語の比

うえ  
上である

ザ ハイ  
the high

した  
下でない

ア ロー  
a low

した  
下である

ザ ロー  
the low

うえ  
上でない

ア ハイ  
a high

ひょうた すいこう  
表田で推敲する。

ぎやく  
逆

うえ  
上である

うえ  
上でない

うら  
裏

はてな

した  
下でない

うえ うら ぎやく  
上であるの裏であって逆ではない  
すいろん  
を推論する。であるの逆ではない  
ならであるだ。上の裏なら下だ。

ぎやく  
逆

うえ  
上である

うえ  
上でない

うら  
裏

した  
下である

した  
下でない

した  
下であるになる。

ひょうた すいこう  
表田で推敲する。

ぎやく  
逆

ザ ハイ  
the high

はてな

うら  
裏

ザ ロー  
the low

ア ロー  
a low

ぎやく うら  
ザの逆でありハイの裏でない。  
それはアでありハイである。

ぎやく  
逆

ザ ハイ  
the high

ア ハイ  
a high

うら  
裏

ザ ロー  
the low

ア ロー  
a low

ア ハイになる。

上であるの逆の逆の裏であるになる。

上の逆の逆は上でありその裏だから「下」。

であるの逆の逆はであるでその裏だから「である」。

そうするとここから「はてな」は「下である」と推論できる。

これが正しく直すの正直のことで。英語や漢語はここを重要視する。

ア ハイ、ア ロー、

ザ ハイ、ザ ロー、

である。

仮にア ハイが分らないとする。

はてな、ア ロー、

ザ ハイ、ザ ロー、

になる。この表田の比はアとザとハイとローから出来ているから其処を考える。

アとザの使われ方は、

はてな、ア、

ザ、ザ、

に成つていてザが二つでアが一つに成っている。位置関係は、行列表柁の構造に成っているから、なら、はてなは使われていない残りのアであろう。

ハイとローの使われ方は

はてな、ロー、

ハイ、ロー、

ひょうた  
表田にする

ザ the	はてな
ザ the	ア a

すいろん  
推論する

ザ the	ア a
ザ the	ア a

アになる。

ひょうた  
表田にする

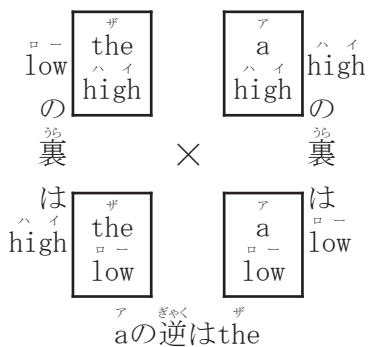
ハイ high	はてな
ロー low	ロー low

すいろん  
推論する

ハイ high	ハイ high
ロー low	ロー low

ハイになる。

ザ ギャク ア  
theの逆はa



これをわ ぶ  
割り振ると

ザ ハイ the high	ア ハイ a high
ザ ロー the low	ア ロー a low

になる。

に成<sup>な</sup>っている。上<sup>うへ</sup>にハイが二<sup>に</sup>列<sup>れつ</sup>、下<sup>した</sup>にローが二<sup>に</sup>列<sup>れつ</sup>に成<sup>な</sup>っているはずだ。そうなれば残<sup>のこ</sup>りのハイしかないことになる。ここの二<sup>ふた</sup>つから推<sup>す</sup>論<sup>ろん</sup>でアとハイが成<sup>な</sup>り立<sup>た</sup>つ。そうなればアハになる。

ザ ハイの待<sup>たい</sup>遇<sup>ぐう</sup>はア ローであり、

ザ ローの待<sup>たい</sup>遇<sup>ぐう</sup>はア ハイである。

ア ハイの待<sup>たい</sup>遇<sup>ぐう</sup>はザ ローであり、

ア ローの待<sup>たい</sup>遇<sup>ぐう</sup>はザ ハイである。

ザ ハイの裏<sup>うら</sup>はザ ローであり、

ア ローの裏<sup>うら</sup>はア ハイである。

ザ ローの裏<sup>うら</sup>はザ ハイであり、

ア ハイの裏<sup>うら</sup>はア ローである。

ザ ハイの逆<sup>ぎやく</sup>はア ハイであり、

ア ハイの逆<sup>ぎやく</sup>はザ ハイである。

ザ ローの逆<sup>ぎやく</sup>はア ローであり、

ア ローの逆<sup>ぎやく</sup>はザ ローである。

ハイとローの関<sup>かん</sup>係<sup>けい</sup>を現<sup>あら</sup>わそうと考<sup>かんが</sup>えると、ハイ、ローに、アとザをつける。

ザ ハイにア ハイと、ザ ローにア ローであり、

全部<sup>ぜんぶ</sup>で四<sup>よん</sup>通<sup>とお</sup>りの組<sup>く</sup>み合<sup>あ</sup>わせができる。

ザ から見<sup>み</sup>ると、ザ ハイとザ ローであり、

ア から見<sup>み</sup>ると、ア ハイにア ローである。

最初にアとザの組み合わせを考え、文字の組み合わせの表田の比を作る。それを、田の字の形に配列し図形の表田の比を作る。こういつたことが創造の根源だ。なぜなら推論できるからだ。どこかに問題があればその問題を表田の比にして組み合わせを変えることができるからだ。

### 用語を推敲

言霊は、幼子ほどわかるぞよ、今時の知恵や学で出来た人民ほど聞き分けがないぞよと国祖はいう。そしてそれは、日の元に源を発し他国で育った言霊であるぞよ、今の日本の人民のは言霊とは、申さんぞよ、という。

ここから考えるに言霊とは古代日本語にはありながら現代日本語からはなくなっていることがわかる。その言霊そのものを、どのようにして知ることが出来るだろうか。日本語には昔から今もあるが古代語と現代語では運用が違った語で、なお他国語で古代から現代まで似たような語で古代語では日本語も他国語も同じように使われていた語を推敲して見ればなにかヒントになるものがあるはずだ。

漢語や英語では、古代から現代まで変わらず、日本語では古代と現代でひっくり返った語であつて、漢語英語日本語で意味も同じような語である用語で、推敲してみればいいことだ。そんな用語あるんかいなと思うだろうがあるんだ。それはDOSとですのことだ。

英語ではDOSは、コンピュータのOSで例えばマイクロソフトのMS・DOSとか、インターナショナル ビジネス マシーンスの、DOS/Vとかに使われ、DOSは口頭

で出るとか盛んになるとか成功するとかいう意味で使われる。だから名は体を表す。英語でDELLは茂るとかいう意味だ。茂るは生えてくる。それは出てくるである。だから、DELLは出るになる。

DOS/Vと名づけるのも、最大手のパソコンメーカーが社名に、DELLを名乗るのも、英語の隠身言霊である。英語の勝利のVサイン、Microsoft DOS/V、DEL。これはアルファベットのOSの英語の賛美、科学のバラムン教の栄光だ。

ドスは、成功するだから、MS・DOSをマイクロソフトは成功するとかゆうふうには、英語文化圏の人は、生の実感でそう感じる。IBMのDOS/VのVは勝利のVサインで英語の勝利のVサインだ。OSは英語で出来ている。英語のOSが世界を席卷するのは、英語がそれだけすぐれているからだ。だったら英語で出来たOSを上回るOSを出してみなという英語文化圏の自信のあらわれだ。

古い日本の文化を今に伝える京都祇園の舞妓さんは、今でも自分を「うちが舞妓の小菊どす。よろしゅう、お願いいたします」という。昔は日本でも、どすが肯定であつたその名残で、ですはあまり使われなかつたはずだ。それが変化してですを多用するようになった。当然使い方も変化した。かつて創造するために積極的に使われた、出て来るのどすが廃れて、英語と同じ使い方でなくなつた。

古代英語も現代英語もドスは死で消えて無くなるの否定だ。肯定では今も昔も出て来るのドスを使う。現在の日本語では、ですを断定の認識に使う。現在の日本語でどすは劔やどすの聞いた声に使う。古い日本語を今に伝える京都祇園の舞妓さんが肯定にどすを使うのは古代日本語ではどすが肯定的、積極的、創造的に使われていた名残だ。ですは否定的

こ だ い ご  
古代語

	こうていでき 肯定的	ひていでき 否定的
に ほ ん ご 日本語	どす	です
え い ご 英語	ド ス D O S	デ ス D I S

げ ん だ い ご  
現代語

	こうていでき 肯定的	ひていでき 否定的
に ほ ん ご 日本語	どす です	どす です
え い ご 英語	ド ス D O S	デ ス D I S

ただ え い ご  
只の英語

ド ス D O S デ ル D E L L	せつきよくできそうぞう 積極的創造 こうていできえいこう 肯定的栄光
--------------------------------	---

じゅけん に ほ ん ご  
受験日本語

で どす出る	つるぎ とび だ 劔が飛出す
き どす斬る	つるぎ き 劔で斬る
き ころ 斬り殺す	つるぎ ころ 劔で殺す

じゅけん え い ご  
受験英語

キ ル K I L L デ ス D I S	き ころ 斬り殺す
デ ス D I S キ ル K I L L	エイズウイ ルスの論理
じゅけんげんご ただ げんご 受験言語と只の言語を ごちゃ混ぜにしている げんだいにほんじん じゅけんげんご 現代日本人は受験言語 を只の言語とおも っている。しかし受験言語と ただ げんご まった ちが 只の言語は全く違う。	

な意味であつたはずだ。

消えるのですが肯定に使われるようになった。これは英語と違つた歴史を日本語が歩み始めたということだ。今の日本語文化圏では我を滅して公を出す滅私奉公だ。これはエゴをデスして残りがセルフということだ。今も昔も英語文化圏では自己をデスしてこそ社会に参加しえると考ええる。ドスであつてこそセルフであるということだ。国際外交では今でもドスが第一でありデスは外交の席で相手にされない門前払い。

だから日本がデスを使い輦轡を買う。日本人は一所懸命にですのよさを説くが理解してもらえない。日本人は他国からみればノイズだ。なぜ、自分たちが守ってきたお宝を粗末にするのか。感覚のずれを自覚しない日本人はいいように騙される。外国から見れば嘘をついている。正直でない。自国の文化を守るために外交するのが習わしだ。外交は四八音をガードするのが正攻法だ。政策はいかに四八音を構築するかという方法に過ぎない。

これはエゴを滅したからセルフであつて、それは人様のためであつて、ということになり、自分のご意向でなく、いわば全体のご意向がそうだから全体の代弁をしているということに終始して、責任者が采配を振るうということはまず在りえない、日本語の顔のない社会が出来る。外交の席で交渉相手が、誰が言つたのかというと日本人は、と、いうことであります、というばかりで誰が言つているのかわからないから、と、お前が言つたんだからお前が交渉の責任者じゃないのか、ということになる。

もともと日本語でも古代ではどすは、肯定の意思をはつきりさせる場合に使つて、どすは否定の意思をハッキリさせるために使われていて、はつきり区別して使われていたはずだ。しかし振じれが生じどすはならず者の凄みのあるどすの利いた声とか、どすを現し、

こ だ い に ほ ん ご  
古代日本語

どす	である
	うちどすといえ <small>わたし</small> ば私である。
	どすこい
	こうていき 肯定的。 こんげんてきき はく 根源的気迫。
です	でない
	うちですとは、 <small>い</small> 言わなかった。
	でない
	ですがといえ ば、 でない。
こ だ い に ほ ん ご    こうてい    ひてい 古代日本語で肯定と否定 <small>めいりよう</small> が明瞭だった。	

げ ん だ い に ほ ん ご    じ ゅ け ん に ほ ん ご  
現代日本語、受験日本語

どす	である
	うちどすといえ <small>わたし</small> ば私である。
	ど す 小刀
	あいくち    おど    はかいてき ヒ首や脅す破壊的 なイメージ。
です	である
	うちですといえ <small>わたし</small> ば私である。
	でない
	ですがといえ ば、 でない。
じ ゅ け ん に ほ ん ご    げ ん だ い に ほ ん ご 受験日本語現代日本語は <small>こうてい    ひてい    ふめいりよう</small> 肯定と否定が不明瞭だ。	

刺すときの擬態語に使うようになり、どすはならず者が使う言葉になつてしまつた。

ですは消えてなくなるが改善され、肯定であるが意思が出んというように滅私奉公を支える用語になつていつたが、どすは本来現れるという作用があるが、古代のように現れる作用を活性化して使われることは無くなつていく。もともとどすは本来あるべき姿と響きあい、自身の実現を活性化する。自分自身に由来する皇天行の運動をとるから、三五教の禁止する自由行動を助長する。これは三五教を中心とする中央集権を作るうえで邪魔だからどすは排除され自由行動とは反対の滅私奉公に適合したですが榮えることになる。

日本人の滅私奉公からすると私ですは、我をデスして我をキルと、滅私であるから残り奉公だになる、我が在るデスなんだ。それは我を切り裂く劔のどすが出るだから劔のどすで切るといふ日本人。滅私是我を切るでその日本人の話を英語文化圏の人が聞くと劔が出るが劔で切るになつて我が在る切るで、私ですに聞こえる日本人の滅私奉公の世界に聞こえる。だから、日本人はどす出るをです切るといふのかとわかる。

どすは改悪されて不活性化しならず者の与太者が使う語に墮ちたが、ですは、改善され広まつた。だが、このことを英語文化圏の人は、驚愕するだろう。ドス デルをデス キルといつていふように英語文化圏の人は聞こえるだろう。これは大変な誤解だ。本来ドス デルとデス キルを混ぜて答えるのは英語文化圏では英語ではない。ドス デルが英語とは正反対の劔のどすが出るになつてしまい、斬り殺すがキル デスになつてデス キルになる。

このです切るを英語文化圏の人はナチュラルキラ細胞デスと聞こえる。デスは丁度ナチュラルキラ細胞がバイキンを退治するというような意味があるが、デス キルではナ

チュラルキラ―細胞をキルで、エイズウイルスの論理になる。つまり、英語文化圏の人が  
ドス デルと日本人にいうと、日本人がデス キルと答えて、英語文化圏の人は日本人が  
エイズ ウイルスの論理を使いエイズの論理でビジネスするのかとさぞや驚いたろう。

確かに日本人のいうことも一理ある。だが英語文化圏の人は日本語の話を不可解に聞こ  
えるだろう。なぜならそれが不自然だからだ。ナンセンスだからだ。英語ではいたるところ  
にドスが出る。日本語では、ですが繰り返される。とつすると、ドスが出るたびにデル  
が出ることになり、日本語では、ですが出るたびに切るが出る。そうすると英語は膨大な  
デルがたまり、日本語ではすまじい数のキルがたまる。

そうなるとだんだん英語はデルがたまるから活性化し、日本語は切るばかりで消極的にな  
つてくる。日本語こそどす出るので切るの摩擦で擦り切れる滅私奉公のエゴであり、  
ドス デルの英語こそ、ただのセルフ。エゴこそ滅私奉公であり、セルフとは単にセルフ  
がドス デルだ。英語でセルフは自身の原型と響きあうことだ。

当然、それはかつて日本でもどすだったころは、自由行動が盛んで自分の根源と素直に  
向き合う生活があった。それが廃れ、滅私奉公が支配する社会になってしまった。それを  
お筆先が今の日本の人民の言葉とは申さんぞよというのだ。愚か者が英語はどす出るの  
デス キルという。たわけ英語は自分自身の根源と響きあうと言っているんだ。森羅万象  
と共鳴するドスと言つてることがわからんか。

イングリツシュにジャパン イングリツシュがない。ジャパニーズにジャパン ジャパ  
ニーズがない。ジャパン イングリツシュ、ジャパン ジャパニーズの害国語を愚か者が  
自分で作っている。もとは、言霊のMS・DOS DELLなのに、愚か者がでつちあげ

た不明瞭が、MS・DIS KILLと答える。

#### 四八音

ドス デルとどす出るは発音は同じでも意味は違う。デス キルとどす切るは発音は同じでも意味は違う。この違いを認識するかしないか、それが霊界物語の秘密を解く鍵だ。この今と昔では、ひっくり返ったこの用語の秘密が鍵だ。物語ではここが出てこない。それが王仁が編纂しえなかつた後、三十九巻の真実だ。ここを的確に整理できないから混乱が生じる。それが霊界物語の真実だ。

ですは、言葉ですであつて、言葉を斬ると行動になる。無駄口潰して働くサラリーマンの論理であり、間違つたドス デルが、どす出るに成つてデス キルに成つて、です切るになる。そうすると言葉を潰して行動というのは、言葉が自身と響かないことだ。単純にドスは自身と響きあい共鳴することだ。だが受験戦士やサラリーマンには、このもつとも大事な、自分自身の根本原理に由来した皇天行の運動としてのドス デルがない。

三五教の奥義は自分自身の根本原理に由来した、皇天行の運動である。それは単なる、自由行動である。だが三五教は自由行動を禁止する。理想を掲げ理想を實現すると違反者として罰せられる。理想を實現せよと言いながら実績を上げれば処罰される三五教は嘘吐き、そのまんまのどす出るがデス キルで、です切るがあつても、単なるドス デルがな。つまり地球救済という目的理想を掲げながら、地球救済の目的理想そのものがない。しかも禁止されている。万類の幸福を實現しようとすれば潰される。

三、五教や靈界物語には常に不明瞭が付きまとい、明瞭を濁す。明瞭であれば地球の救済を事實上禁止しているのが三、五教だとわかつてしまう。実際に明瞭に成つてくると三、五教が矛盾していることに気付く。そこでより根源的な処に矛盾を移し、見せかけの明瞭を作る。確かに理論的には筋が通る。だが、それはより根源的な処に矛盾を移行し、新たな不明瞭を作つていくにすぎない。だから三、五教の靈界物語を読んでもちつとも明瞭がない。

明瞭を、何とかして利用しようとするからだ。明瞭であれば明瞭であるほどなんとかして利用しようとする。人間の持つ可能性みたいなものに着目し、たんに人間が明瞭に従うことを善しとしない。明瞭を見るとなんとか利用しようとする。そのまま、ありのままであることを許せない。

本来ドスはもとと響きあうとかもとが現れるのであるのに、三、五教は現れるを管理しようとする。ところが森羅万象を管理できるはずがないからドスを管理できない。自由行動を管理できないから潰す。そうしないと管理できないからだ。それが不明瞭のもとだ。

常に外交で切磋琢磨した国際社会ではドスの有効性が確かめられ、ドスは敗北してきた。勝利したのは常にドスであり、破れるのはドスと相場が決まっている。だから敗北を招くドスは外交では決して使わない。相手のドスとドスを探り、ドスの妥協点を探るか、相手にいかにもドスに誘い込み、こちらがいかにもドスを構築するか、それが外交だ。自らすでに敗北している現代日本語は世界の笑いものだ。

世界の民は日本人がそのことに気づくかどうか注目している。いまここで、ですばかりでここまで来た日本がどすに気が付けば日本の国力が爆発する。そこに世界が注目している。衰退した日本が再生するきっかけがあるとすれば、国際化した構造改革を為し得ると

したら、軌道がずれた日本語の軌道を修正し、外交で通じる語学力を身につける言語感覚を身につけるとしたら、誰もがそれを漠然と感じている。何かが何かとずれている。それがずれた。ただそのずれを自覚することが出来ない。

今の日本人にはドスが全くない。日本語ですとどすと、英語のデスとドスのこの差、そこに気がついていない。そこが日本人の弱点だ、と国際社会は気がついて、そこをついてくる。外圧がそうだ。日本人はグローバル化した社会で日本人の良いところが滅私奉公のために疲弊して、人間関係を構築する社会構造がかつての輝きを失った。それは昔からの日本人の知恵をどんな相手にも明確に説明できないからだ。何となく感じてきた昔からの知恵。それは日本語の四八音。

外国が外交で切磋琢磨したドスを日本人は四八音で感じていた。外国の言語では日本語の四八音が少ない。そこで何とか濃縮しようとして試みられた。日本国は長いこと外国に占領されたことはなかった。その結果、長く平穩無事で、日本語の響きは四八音が元々濃かつたから日本人は民族が総力を結集し濃縮しようとしなかった。だが文明が発達しボーダレス化が進みグローバル化したいま、否応無しに軌道を修正し濃縮を迫られている。

外国語のほうが四八音の響きの中に、はいり易い。古典の古事記や万葉集や大祓祝詞は英訳したほうがわかりやすい。英語で考えたほうが理解しやすい。外交ではどんな四八音を使うかが勝負だ。当然それが文化をはかる目安だ。日本は島国であることと、豊かな響きのお陰で栄えてきたが、宇宙船が飛び、携帯一つで世界中が結ばれたボーダレス化したグローバルな今、その守りは効かない。今すべきことは、響きの四八音を外国語のように濃縮することだ。外交では濃縮に成功した文明が栄えるのが常識だ。

日本人は二、三千年の間、濃縮せずにここまで来たのだからここで濃縮に成功すればとてつもないことに遭遇する。それがお筆先の言霊の仕組みだ。外国のほうがよほど身魂が磨けていると言ったのはこのことで、一厘の仕組みは言霊の仕組みでそれは外国語の仕組みだ。言霊は日本人の専売特許ではない。どこの民族、宗教、国家、言語にもあり、どれも似通ったもので古今東西、人類のすることに大差はない。私もあんなも同じだから人類は皆、平等だ。そのことを高らかに歌い上げる。

英語のドスほうちどすのどすだつたに気づいて、今の日本語の軌道を修正することが、言霊の仕組みだ。お筆先のいう日本語の過ちは日本人の鈍い叙情感だ。日本的ないつている叙情感こそ、それは四八音の響きで外国が命がけで錬磨したお宝だ。日本人はそれをつまみ食いしてただ食いしてきた。だから外国に総スカン。だから外国に睨まれると命がけで鍛錬してきた外国の気迫にタジタジだ。いつも外国に頭を下げてばかりだ。根性を入れて錬磨してみろ。

日本人が粗末にしてきた言霊。花鳥風月とかわびさびという響きの四八音を外国人がいか大事にしているかが分かれれば、そうすれば見えてくる。外国人が命がけで、錬磨した人類のお宝を日本人がどれほど粗末にしたか。外国では貴重で尊いお宝を日本人は持つていたのに、日本の愚か者が外国人が必死で守ったお宝を台無しにする。外国が欠乏に苦しみながら、皆が恋いこがれるお宝は実は四八音の響きだ。それを日本の愚か者が踏みにじる。日本の見えてない愚か者が指導するからだ。

日本が響きを伝え、他国の濃縮還元方法を使い、人類のお宝を構築する。日本人にそれが出来たとき、いい意味での黙示録が成就する。そのことを認めず、外国を崇拜する日本

の四八音を認めない人が、外国が探し求める四八音の響きを遮断する。それで日本は外国から侮られる。日本語の四八音を粗末にする日本の中の勢力はどすを理解しない。自国の四八音の響きを聴いて自国の文化を築いたのに、自分たちのお宝をほっぽり出して他国のお宝のおこぼれを頂くために徘徊する。

外国ではあらかた濃縮方法は出尽くした。しかし良質な材料がない。濃縮に耐える立派な素材がないとすばらしい出来上がりにならない。その素材こそ日本語の四八音だ。しかし四八音の響きを認めない人は、外国が自国の四八音を鍛え文明を築いたことに気がつかない上に認めない。それが誤差を生みだし、ずれを生むのだ。その愚か者を納得させうる四八音の響きの濃縮方法をわかるように示す。それが一厘の仕組みだ。それが出来ねば悪い意味での黙示録が成就する。

### 単純明快

それを簡単に出来るようにする。一目でわかるようにする。簡単に扱え明快である必要がある。そんなことが出来るか。それが出来る。邪魔する日本人の中のわけの分かれぬ屋に説明は通じない。理屈を逆手に取り屁理屈をこねるからだ。屁理屈をこねる相手に、道理を説いても通じない。ではどうする。その回答が示せてこそ、一厘の仕組みだ。彼らはどうしてもドスが言霊と認めない。彼らはピラミッドを八尋殿と決して訳さない。

人類の営みに古今東西、差はない。人間の言語の処理能力は基本的に同じであるから、日本語も英語も原型は同じなのだ。そこに気が付くかだ。どこの言語にも基本となる訓読

みの千語ぐらいがあつて、その上に外来語や専門用語がある。それを並べて比べてみれば一目瞭然。

四八音を守り自国の文化を守る外交はどうするか。そのためには言葉の吟味だ。そのためにはより創造性のある用語を見つけ出す。だから響きが重要になる。言葉の司る響きに気をつける。そこで言葉の吟味が繰り返され、出てくると消えるの必須の響きが残った。だから、ですは使われない。なぜならですのほうがいいからだ。日本人は意図的にですを避けている。それで四八音の響きを日本的叙情感のわびさびとか言霊と言つて日本独自のものと言つてゐる。

だからそれを外国は命がけて鍛錬してきたのだ。そのお宝をぶつ壊す日本人の中の愚者が、他国の練り上げたお宝の四八音を日本でするようにぶつ壊し聲をかう。外交では自国の四八音を認め正当に評価しさらに高めてくれる相手が最も高く評価される。自国の四八音が扱えない日本人は外国のように自国語や他国語の訓読みの響きから互いの文化を創造する外交が出来ない。

どこの民族や国家でもナシヨナリズムがあり、どれも自分たちが一番と考えるのはどこにでもある。だからあんたもおいらも同じだと言える。人類のすることに差はない。そこで日本人がですより、ですのほうがいいんだと気が付けば、そこに四八音の濃縮還元方法が見えてくる。二、三千年の間してこなかったのだと気が付けばナシヨナリズムを超える方法が見える。世界中で宗教や民族が対立して、テロや戦争が起こるのは外交の王道が示されてないからだ。

お筆先や霊界物語でもそれが繰り返し起こつたとある。だがそのパターンは相似してい

る。戦争と平和には法則があり、元は同じである。乱世を平定し治世を統治する必須が  
ればよい。戦争原理が出尽くした今、あらゆるすべての汚濁を飲み込める清流があればよ  
い。先祖が磨いた豊かな日本語の四八音を使い日本人は外国の汚濁を飲み込むことが出来  
た。

それは先祖が磨いた日本語の四八音の響きと島国であつたから守られていたから文化を  
保てたが、ここまで国際社会がボーダレス化しグローバル化し情報が駆け巡る時代にはそ  
のガードはきかない。それは国際社会が繋がり共同体を構築したということだ。纏まりに  
なつたということとは、世界中が纏まりに組み込まれた。纏まりになる過程で、外国の殆ど  
の四八音は纏まりに組み込まれていった。その中で四八音とナシヨナリズムの汚濁が相克  
する。怒濤のごとく押し寄せる汚濁に四八音が飲み込まれ清流が濁りきつた。

それが、人類が天然自然の中で孤立してきた過程だ。人類が文明を発展させる一方で、  
感性を退化させた。それが種としての人類を滅びに導く。日本人はその滅びの最前線にい  
る。日本語は何千年も濃縮還元してないから、世界で最も汚濁にまみれているからだ。  
現在の日本語ほどぶつ壊れた言葉は二度と現れないだろう。現在の地球の人類の共同体の  
史上空前のグシャグシャと、現在の日本語の滅茶苦茶の構造は、相似している。基本的に  
四八音が崩される過程はみな相似している。

国際社会の汚濁が四八音を飲み込んでいく過程と、日本語が四八音を失っていく過程は  
同じ過程を経ている。民族や宗教が荒廃していく過程は人類共通である。四八音の響きが  
不明瞭になるパターンは古今東西みな同じである。不明瞭が明瞭を食い潰しながら共同体  
が出来た。その中で日本語は濁流に呑み込まれながら清流がかれていない。四八音の響き

はいまだに鳴りやむことはない。戦争原理が出尽くしてもいまだに鳴り続けている。もつとも壊れながらそれでも響く。

このことは、日本語の四八音の響きが共同体の濁流を清める清流になり得るということだ。だが、それには響きをぶつ壊す人人を説得出来るかどうかしだいだ。そしてこのですとどすの違いを認識しない人は明瞭の話をすると何故か軍国ナショナリズムやテロリズムに取る。不明瞭な人が言っていることが軍国主義やテロリズムの言っていることなのだ。戦前、不明瞭な指導者が日本の進路を誤らせたのに、戦後、不明瞭な人が日本の指導者になつて四八音の響きを悪くいう。

戦前戦後も一貫して不明瞭な人が日本を指導するから世界に貢献できない日本人の日常が、世界を悪くする原理と全く同じであり、四八音をぶつ壊す生活が世界を滅ぼす人類の繋がり行動であることを日本人は自覚すべきだ。

日本人が上手い濃縮還元方法を構築できれば、それが濁流の共同体を清める清流だ。今の日本語の中にある不明瞭な因子を、一つ一つ最適化していけば必ずそこに行き着くはずだ。かつて、先史と呼ばれた縄文時代の訓読みの仮名に有史以降の汚濁を清める清流がある。先史の四八音が失われていく過程は有史の汚濁が一人歩きして先史の人々の警告を省みなくなる過程だ。今、汚濁が清流を乱すこの事態を先史の人々は皆、恐れていた。仮名を失った、この時代のこの日本にこそ、ただの仮名が効果絶大である。

音読みは同じ言語同士の音読みの語だけを集めて書く、訓読みは同質同集の訓読みだけを集めて書く。外来語はその外来語の元になつた言語から出来た外来語同士だけを集めて書く。ごちやませの言語では言語としては完結しない。例えば剣道は剣道のルールで完結

する。剣道の剣士が相撲の土俵でボクシングのルールで野球をしても摩訶不思議な不可解なだけだ。言語は基本的にその言語で完結する。

訓読みの仮名がまぜこぜになり、不可解なことになっているに過ぎないならば、上手い濃縮還元方法とは、清流とは、何か。それは完結した訓読みの仮名である。それが多国語の仕組みである。

## 推敲

お筆先にも靈界物語にも、一厘の仕組みとは何か、言語の仕組みとは何なのかが、書かれていない。ただ、外国のほうがよほど言語であるぞよ、今の日本のは言語でないぞよと出ているが、それは何か出ていない。それは幼子ほど分かるぞよ、知恵や学で出来た身魂ほど聞き分けがないぞよと出ているが、それは何か。

お筆先の言語とはバラモン教やウラル教には天祥地瑞の時代から今でも常世彦や大國彦にはありながら、三五教には天祥地瑞の時代がありながら靈主体従から山河草木の時代には失われ、縄文時代にはありながら終焉以降に失われた何かである。

世界人類の言語は大体共通で似通っていて、それはすべての言語にも基底をなす訓読みがあり、基礎となる訓読みの運用が言語の運用の基礎である。翻訳の過程で、基礎となる各言語の言語の基本となる訓読み同士の関係をハッキリさせる。そうすることが他国語を言語にして、他国語に翻訳することがそうすることだ。そこに新たな言語が生じる。それが一厘の仕組みだ。

だが身魂が曇るというように曲言は訓読みの基礎が出来ていない。他國語を受験言語にするとき、必ず基礎となる訓読みの因果律をグシャグシャにする。さらにグシャグシャにして受験他國語に翻訳する、それが身魂が曇るだ。これは訓読みの運転が分かれば身魂を磨ける。他國語を輸入し他國語の訓読みを理解し、さらに推敲し練り上げ完成させた言語を翻訳して、より完全な他國語にして輸出する。

お筆先で外國のほうがよほど身魂が磨けていると言っているように、今の日本語は言霊ではない。これは外國のほうが日本より言霊であるということだ。その差はどこに出ているか。それは日本人が他國語を受験國語に翻訳し、受験他國語に翻訳する過程によく出ている。それはドスデルを訳すとき言霊と訳さないことがそうだ。この受験戦争勉強言語が曲事である。曲言は英語で、イングリシカル イングリシユであつて、イングリシユでない。イングリシシユは言霊である。

受験言語は言霊を禁止したため結果的に曲言に至った。それは世界で最も言霊を、乱す論理である。言霊を言霊から排除すると残りは曲言。知らず知らずに悪魔の間合いを取る受験他國語を持ち込まれ他國は閉口している。受験言語は言霊を否定し、結果として曲言になる。曲言を推敲し言霊化する。改悪で善を成そうとする。

基本は曲言で改悪をもとに正直しようとする。曲言で言霊しようとしている。そんなこととせんといて、初めから英語のように言霊で言霊すればよいのだが、受験言語は嘘をついて誠にしようとしている。

靈界物語の時代、三十五万年前は中東が三五教の拠点で、一万二千年前には中東と極東に拠点があり、現在の三五教の拠点は極東である。北米は三十五万年前は大国彦の拠点であ

り、一万二千年前、大國彦を祭る二代目、常世彦の拠点であり、現在はアメリカがある。

日本語と北米大陸の英語の關係は、三十五万年前の中東の國常立命と、北米の大國彦と一万二千年前の中東と極東の素盞鳴命と北米の二代目、常世彦の關係が今にかかつているのだ。当時から國常立命や素盞鳴命は、受驗言語の論理である四八音の響きの不明瞭をもとに正直していたのに、大國彦や常世彦は他國語外交の理論である四八音の響きの不明瞭をもとに正直していた。

英語は、靈主体従以前の時代から言靈を保つ。北米が栄えるのはそのためだ。三五教は中東から極東に拠点を移動するが、言靈は衰退する。太古から北米は言靈の本場である。日本は神世の昔から言靈で北米に遅れをとり、そのことを軽く考え、日本語が英語より優れていると確信し、日本語が時代錯誤の曲言であることに気が付いていない。

イングリッシュは四八音の明瞭であり、不明瞭はイングリシカル。イングリッシュでまさにジャパン。イングリッシュである。当然、曲言は四八音の響きの不明瞭で、イングリシカル。ジャパニーズは受驗戦争勉強言語であり、ジャパン。ジャパニーズが、まさに曲事である。それは素晴らしい言靈をハブと言ひ。こりや、駄目だをへビーという。素晴らしきという響きを表す言葉が英語ではハブである。

大國彦や常世彦は三五教の弱点を知つてそこを突いてきた。それは、三五教はハブを蛇と答える淫祠邪教だ、というものだ。そこで何故、ハブを言靈と言わないのか。本来ハブは正直だ、嘘ではない。それを平気で嘘をつく、悪神だからだと言つた。だつたら言えればいい。だが言えない。受驗勉強には無いからだ、三五教にはないからだ。明瞭であることは不明瞭が崩壊することだ。不明瞭に準拠した三五教は明瞭だと崩壊する。崩壊しないた

めに何かと不明瞭を持ち出す。そこが三五教、受験勉強の弱点だ。

受験英語が曲言であり英語が言霊である。受験漢語が曲言で漢語が言霊である。縄文、一万年の古代日本語が言霊であるが、外国ではいまだに言霊だが、終焉以降二千年の果てに、曲言受験勉強のジャパン ジャパニーズが出来た。これが地球を滅ぼす。何故か、それがお筆先という因縁である。過去二回、地球は滅んだ。そして今、再び、それが繰り返される。その再来の滅びが受験勉強の秘密である。

受験戦争は勉強言語です。アイウエオ調和漢外来語混淆文である。受験勉強は仮名だけを認めない。問題はそこだ。アルファベットや漢字は仮名である。基本的に漢字やアルファベットだけでほかの文字は使わない。つまり、仮名だけだ。それが言霊である。言霊は四八音の響きを推敲するが受験日本語は四八音の響きを推敲し理解しようとはしない。そのかわり四八音の響きに当て字をするほうに向かう。

大体どこの言語も千語ぐらいの仮名の訓読みがあつてその組み合わせで基礎が出来ている。当然、その千語が言霊をなす。四八音の響きは基礎となる千語の訓読みの仮名で推敲する。それが言霊だ。だがそこにほかの文字を持ち込むとどうなる。響きとの通信交通に雑音が、はいり純粹さが失われる。故に他国では使い慣れた馴染んだ自国の仮名であることにこだわる。馴染まない外国の文字は使わない。

曲言とは何か。それは四八音の響きの不明瞭であり、四八音の響きを仮名の論理で証明できないことだ。受験勉強は四八音の響きを不明瞭化していく。幾つも幾つも造語を作るばかりで、仮名の濃縮還元がない。です。アイウエオ調和漢外来語混淆文に仮名を置き換えることはどう置き換えるかに思考力を使い、なんと読むかに思考力を使い、どの漢字

を使うかに頭を使い、そういったことに。パワーを使い考えることに気が回らない。  
あまりに複雑になり過ぎて、考える上で不便きわまりない言語である。それを翻訳する  
から他国から見るとわからない翻訳になる。もともになる訓読みの仮名の基礎が受験勉強に  
はないからだ。それが曲言のジャパン ジャパニーズだ。ならジャパニーズである言霊は  
仮名だけである。

## 誤解

英語では味付けはハブであつてヘビーであつてはいけない。ところが日本人のさじ加減  
はヘビーの駄作であるジャパン ジャパニーズなのだ。味付けはセンスであり、この微妙  
な英語の感覚を理解していない。身魂を磨くことはこの味付けを理解することだ。言霊と  
曲事の差は英語の味付けのハブとヘビーの差だ。

イングリッシュでは、ハブとヘビーの関係は善と悪の関係であつて、誠を嘘と言わない  
ように、ハブをヘビーと言わない。日本語では波布は蛇である。当然、ハブと波布という  
用語が出会えばヘビーと蛇も出会う。英語では誠と嘘であり、日本語では沖縄の爬虫類の  
名前と爬虫類のことだ。そのイメージで翻訳するから、ジャパン ジャパニーズなのだ。  
沖縄にいる爬虫類をイメージで連想するとはスネークを連想することだ。

ハブは素晴らしい喜びを連想するのが通常で、ハブにスネークを連想するのはあり得な  
い。これは訓読みの基礎を比較することが出来ていないからだ。言霊と曲言のことを聞か  
れているという認識がない。そこで流暢にハブとヘビーを使い分けるのが言霊だが、そこ

でそれは言霊と曲言と言えないのが受験勉強である。

それはその運用が英語と日本語では正反対の方向に向かつて発展してきたからだ。曲言は、バット アンド スネークと、ヘビー アンド デストロイヤーであり、ヘビーをスネークということはあり得る。だが、ハブをヘビーというのは、六六六や古の蛇だ。英語で、料理が素晴らしい時やうまい酒にハブを使い、決して、ヘビーを使わない。こりや、駄目だや、まずい酒の時にヘビーを使う。

この紛らわしい言葉を理解するには比にして推敲することである。ジャパニーズでは蛇はスネークであつて、ジャパニーズ イングリッシュ ハブがイングリッシュ スネークになつてジャパニーズ蛇がイングリッシュ スネークであり、イングリッシュ ヘビーがジャパニーズ こりやだめだであり、イングリッシュ ハブは、ジャパニーズでは誠というふうに比にして使う。

英語では最初に森羅万象と響き合うときをハブといい、響かない時をヘビーという、ここを教えるが受験勉強では教えない。受験勉強ではハブと言つたらハブでそれでお終い。例えばワールドと言つたら世界と教える。ところがそれだけ。ワールドが何か教えない。ワールドは世界と教えるが世界とは何かと問われてもその辺だよとしか認識していない。ところが英語では、上を見てごらん、下を見てごらん、自分の顔をたたいてごらん、それがワールドだよ、と教える。英語では、ワールドは、あらゆるすべてであり、手を振つても足を振つてもそれはワールドだよ、我我は何をしてもワールドだよ、と教える。そして、それはワールドだ、私たちが話していること自体、もうすでにワールドだ、何でもかんでもワールドだ、いいかい、ワールド ワードも、同じあらゆるすべてだよ、と教える。

英語のワールド　ワールドは世界言葉ではない。世界共通の認識のことであり、世界から出る言葉であり、世界に至る言葉である。ワールドはあらゆるであり、ワールドはすべてである。実在する無限の実感である。乗り乗りに乗っている。活ける生の喜びでありそれがハブだ。言霊はあらゆるすべてであり神から出る言葉であり神に届く言葉であり、ワールド　ワードであり、ハブである。

ところが受験勉強では教えない。だからピンぼけして実感が湧かない曖昧MEになる。もともと言霊や曲言を構成する基本となる訓読みは世界中の言語で似通っている宇宙共通の認識だ。発した時に乗りに乗るならロス　ハブ。だから湿気たらデス　ヘビーだ。言霊や曲言を示す訓読みの仮名はロスとどすやデスとどすやハブと波布やヘビーと蛇のように英語でも日本語でも似ている。だからこそ他国語を比較し多国語で推敲し田圃の田の字を描く田国語で比の和にする言霊が必須だ。

言霊は直霊であり直霊は省みるであり、省みるは、省くであって、省くとは、省くでハブが、久留里、久留里と神神廻を、省みる。ハブが省くになって、省くが省くるになつて、省くるが省みるになつて、省みるが省みるになつて、ハブの運転は、省みるの運転と全く同じで正直だ。言霊とは世界共通の認識を示し、もうそこにいること自体が隠身言霊である。当然ハブも省みるも四八音の響きも宇宙共通の認識を示すが、受験言語はそのことを言わない。これは言葉の認識の違いだけではない。認識の原理自体が違うのだ。

英語には昔からありながら今の日本にはヘビーがあつてもハブがなくてデスがあつてもロスがない。この訓読みの仮名の発想が言霊であり、それが天祥地瑞にあつても霊主体従から山河草木で失われた、縄文時代にありながら終焉以降に失われた、お筆先霊界物語の

はぶ	つづ 綴り	い み 意味
イングリッシュ English	ハ ブ have	まこと 誠
ジャパン Japan イングリッシュ English	ハ ブ have	ハブと き 聞いて にほんご 日本語 の波布 はぶ れんそう を連想 する。
ジャパニーズ Japanese	はぶ 波布	スネーク snake
ジャパン Japan ジャパニーズ Japanese	はぶ 波布	はぶ 波布を ハブ haveと れんそう 連想す る。

へびー	つづ 綴り	い み 意味
イングリッシュ English	ヘ ビー heavy	うそ 嘘
ジャパン Japan イングリッシュ English	ヘ ビー heavy	へび 蛇
ジャパニーズ Japanese	へび 蛇	はちゆうるい 爬虫類
ジャパン Japan ジャパニーズ Japanese	へび 蛇	ヘ ビー heavy

いう言靈である。

## 四八音の濃縮還元発酵

物語の天祥地瑞の時代と縄文時代とにあり、霊主体従から山河草木の時代と縄文の終焉から二千年で日本で失われ、しかし他国では続いていた言靈は仮名文字である。しかし日本つまり三五教では、終焉以降、仮名を理解しないで、縄文時代に濃縮還元発酵した言靈を薄めて質の悪い曲言にした。

受験勉強ジャパン ジャパニーズは、まさに言靈を破壊する技法である。当然受験英語や受験漢語は英語や漢語が錬磨した言靈を破壊する。そこを常世彦や大国彦が国常立命や素盞鳴命を批判する材料にした。だから、三五教がバラモン教やウラル教の良いところである言靈を認め評価し和合するのが一厘の仕組みだ。

英語では英語の訓読みのミラクル グレートを構築する。それは日本語の訓読みの仮名のことで、神に靈を憑けてパツと萌すのドロンプダからパと萌すドロンプダである。古事記の天之岩戸開きはまさにミラクル グレートである。このとき天宇受売命は舞を舞、萌え上がる。そして天之岩戸が開く。巫女に神の靈を憑けてパツと萌え上がる。それが偉大な奇跡だ。太古からその英知が受け継がれてきたのに、この言靈は三五教の誤解により日本から消えた。

太古からシャーマンの巫女が神へ奉納する舞がありそれが歌舞伎や能の起源だ。歌舞伎や能は、神に靈を憑けてパツと萌すのドロンプダ。それを「傾き者」と言ったが、やがて

時代と共にぶつ壊れて無頼になつてしまつた。

無頼の対極は「傾き」だ。これは歌舞伎の語源で縄文時代パと萌すドロロンパであつたのが、二千年の間ぶつ壊されて「傾き」の正反對のへ無頼我が在るになる。つまり、曲言とは「傾き者」のパと萌すドロロンパがぶつ壊れた、へ、無頼の族め、我が在るめだから、へ無頼我が在るである。

天祥地瑞や縄文時代では隠身言霊だつたのに霊主体從から山河草木や縄文の終焉以降、隠身言霊がぶつ壊れたように、傾きがぶつ壊れて、無頼になつたように、パと萌すドロロンパが、へ無頼我が在るになつた。單純明快であつた四八音の素直が失われ複雑怪奇で分らない觀念化した受験勉強になつた。

昔から斬新な発想を得る秘訣として民族や言語や宗教は切磋琢磨してきた。英語ではアザのハブであるが、アザの運用で閃きが起こる。それがミラクル グレートである。それで色色な人種や民族が互いに競合う。そこで翻訳が強みを發揮する。言霊を翻訳し推敲しどこでも自国の言霊を大事にする中で日本だけが言霊を捨てた。

国常立命や素盞鳴命が常世彦や大国彦の主張を見抜けず、隠身言霊を廃棄する事になつた。国常立命と素盞鳴命の三五教こそ一番、三五教こそ正しいという自負心が国常立命や素盞鳴命の判断を誤らせた。それは三十五万年前、三五教は、国常我が在るであつて、素盞鳴命の判断を誤らせた。それは三十五万年前、三五教は、素盞鳴へ無頼であつて、素盞鳴パと萌すではなかつた。天祥地瑞や縄文時代ではパと萌すドロロンパであつたのに、霊主体從から山河草木や縄文の終焉以降の二千年では、へ無頼我が在るである。

英語は、パと萌すドロロンパを天祥地瑞から継承し、三十五万年前も一万二千年前と同じ

く、今でも大国パと萌すを構築する。しかし日本語は天祥地瑞の終焉と共に、へ無頼我が在る化し、三十五万年前に国常我が在る化し、一万二千年前に素盞鳴へ無頼化した。縄文の終焉以降、へ無頼我が在る化した。

それが型になりアメリカは、日本の素盞鳴へ無頼や、国常我が在るを批判するのと同時に、アメリカの大国へ無頼やロシアの常世我が在るの雛形になる。それは日本が国常ドロップや素盞鳴パと萌す出来れば、アメリカが大国パと萌すしてロシアが常世ドロップすることになる型を出すということだ。

ジャパニーズを翻訳するとすれば、アザ明瞭の訓読みの仮名である。パと萌すドロップになる。曲言のジャパン ジャパニーズを翻訳すると、アザ不明瞭の訓読みの仮名である。へ無頼我が在るになる。霊界物語から考えると出来上がった曲言が、国常我が在ると素盞鳴へ無頼である。縄文時代にありながら縄文の終焉以降二千年で失われたお筆先のいう言霊とはパと萌すドロップで、出来上がった受験勉強がへ無頼我が在るだ。

ジャパンチャイニーズが国常我が在るであって、ジャパン イングリッシュが素盞鳴へ無頼であって、大国我が在るがイングリッシュカルイングリッシュであって、チャイナチャイニーズが常世我が在るであって、ジャパン ジャパニーズがへ無頼我が在るである。

へ無頼我が在るは、四八音の響きを薄めた粗悪品のカルピスのときである。日本語の四八音の響きは、よくできたカルピスの原液であるが、僅かスポイト一滴で一トンもの質の悪い水を極上のカルピスに出来ないように、言葉に推敲もしないで悪列な外国語の水で希釈を繰り返した結果、水ぶくれした粗悪品のカルピスになった。それに対しパと萌すドロップは、適量に薄めたカルピスである。カルピスを二倍から四倍に薄めたり、原液をオ

ンザロツクで飲むようなものだ。

受験勉強はもともと極上だったカルピスの原液一滴で一トンもの質の悪い水で希釈したカルピスを、それがカルピスだと信じ込ませる行法だ。受験戦士は上質のカルピスを知らず粗悪品のカルピスをカルピスと信じ、粗悪品のカルピスを量産する。ほどよいカルピスを知らないから外国に行くとか勉強した通りに、外国語のカルピスの原液から粗悪品のカルピスを作り、ばらまく。

外国のカルピスを持つてきた時、外国語のカルピスの原液を排除した上に、外国語の水を推敵もせずに入れたために、粗悪品の水が溢れたのだ。外国は少しでも上質のカルピスを、上質の水を、と錬磨し、どうやって適量に薄め、最高品質の極上のカルピス言霊を追求してきた。天祥地瑞の時代や縄文時代では立派なカルピスであったが霊主体従から山河草木、縄文の終焉から現代まで粗悪品のカルピスである。

天祥地瑞や縄文時代では言霊は四八音の響きを濃縮還元し極上質のカルピスの原液を作り豊かな水で適量に割る。それは最も基本的な訓読みの仮名を濃縮還元発酵して作ったカルピスの原液とその配列の係りの推敲の水で構成された。だが霊主体従から山河草木縄文の終焉以降の受験勉強の言語はいろいろな言語の文字を配列して同じ文字でも場合によって読み方もさまざまで、さらに熟語では組み合わせてまったく違う読みにもなる。これはなんの仮名の濃縮還元もなく、ひたすら水ぶくればかりすることだ。

現代日本人は受験勉強の粗悪品のカルピスを外国語で作るから外交で相手にされない。日本人は自分たちの言語でさえ訓読みの仮名を濃縮還元し四八音の響きを推敲し極上のカルピスの原液を作ることにも出来ない。なぜならそれは法律で禁止されているからだ。仮名

だけの文章は公式な文章とは法律で認められていないからだ。粗悪品のカルピスは合法でも適量に薄めた美味しいカルピスは違法だ。言霊は違法で曲言が合法だ。

外国では言霊が合法で曲言は違法だ。それが普通だ。だからお筆先が、今の日本の人民のは言霊と申さんぞよ。外国のほうがよほど言霊であるぞよ、と言ひ、外国のほうが身魂が磨けているぞよ、日本は身魂が曇っているぞよ、というのだ。だが、磨けば光るぞよ、というように磨き上げる技法の開発が必要だ。それを一厘の仕組み、言霊の仕組みというのだ。それこそが四八音の響きのカルピスを作ることだ。

仮名をほかの文字に置き換えることは煩雑な作業を伴ひ、四八音の響きの濃縮還元発酵を妨げる。そんなことしたいしたことない、べつに困らないというかもしれない。だがおありだ。森羅万象は完全無欠である。言霊、つまり、四八音の響きは、完全無欠と共鳴する。全知全能なるが故に誤ることがない。しかし、人間は全知全能ではないから誤ることがある。それは言葉が完全無欠で誤りがないこともあり得ることもあるが、誤ることもあり得るということだ。

訓読みの仮名はここに強みを發揮する。不完全であるのは文字の読みが浅いからだ。より深い理解ならわかる。よく見りや見えるのだ。そのよく見える目とはより深い理解である。深い理解は深い読みだ。より良い読みが見えるとき、完全でない読みが完全な読みに進化する。その進化はより良い四八音の響きによりて起こされる。当然それは基本となる千語の訓読みの仮名の推敲である。

より良い正しい推敲は、正しい心によりて起こされる。良い心とは善意であり、公共の福祉の実現や基本的人権の尊重、人人の幸せの役に立とうとする性根である。我田引水や

私利私欲では良き心が育たない。悪では正直が成り立たない。そうすると他人を出し抜き俺だけという発想は真善美愛の四八音の響きとシンクロしない。それは完全無欠の判断がくだせなくなつてくる。誤つた判断を限り無く、下しやがて滅んでしまう。悪盛んなるが故に善勝ち浄化される。これが宇宙の自己防衛機能だ。

### 英語の比とないの使い方

言葉は訓読みの仮名の千語で足りる。各言語でも、日本語の仮名の元の訓読みの語に当たる語は千語くらいだ。使い方もみな似ていて比にして分類してみれば一目瞭然。漢語も英語も日本語も訓読みの千語が元だ。ところが日本人はアとザを比にして使う発想が無いから英語文化圏の人の真意が理解出来ない。

三五教の言霊の教えにはバラモン教やウラル教の最高の比にして翻訳する言霊がないから、比が崩れた三五教の教義が外国のバラモン教やウラル教を害国と翻訳する。三五教の教えがバラモン教やウラル教の他国語を至高の真善美愛の比にする教えと手を組むことが一厘の仕組みだ。開国とは、維新とは、戦争ではない、平和だ。百戦百勝、必ずしも善ならず。平和の原理の樹立は比が和を以て尊しとなす戦わずして勝つは善中の善なりの言霊のことだ。

比の理がない現代日本語の公式な文章形態である、各語の拾い集めのですますアイウエオ調和漢外来語混淆文を、作るようなやり方は漢語や英語では公式な文章ではない。その理由は分からないからだ。それは比になっていないからだ。固有言語の仮名で固有の言葉

を話す。固有の仮名で固有の文字を書き、それを各言語どうしで並べて分類し比に  
べる。そこで、あなたの丸丸は私のマルマル、私のマルマルはあなたの丸丸と認識が生じ  
る。英語はこの比を見ている。分類を見ているのだ。整理整頓された構造に着目している  
のだ。

複雑怪奇では比が見えん。複雑怪奇に彩られた混淆文では、比が分からん。どういう元  
の言語で、どこから来て、誰が、いつ、最初に用いたのかわからない。各言語の仮名で、  
各言語の言葉が在って、それを用いて説明できるならまだしも、パソコン用語のようにカ  
タカナに置き換えただけや、数学や法律の専門用語のように、難解なですますアイウエオ  
調和漢外来語混淆文では全く比が理解できない。

ちく、こけ、この。漢語や英語はそれを忌み嫌う。そんなもん要らんというのが当たり  
前。大体そんなもん使えないよというのが当たり前。彼らは言語を扱う上で最初の仮名、  
つまり訓読みを分類し母国語や自国語や知っている言語の比に当てはめて討論するのが習  
わしだ。彼らにいわしてもらえば日本語は国際外交の哲理に違反した嘘つき言語だ。なん  
で日本人のパスポートを持ちながら日本人ではないというか。どう見ても日本人にしか見  
えないのに自己紹介では日本人ではないという。立派に嘘を付いている嘘つき日本人だ。  
不可解な受験日本語は当然英語文化圏の人から見ると言語ではない。今のアザが不明な  
受験日本語は彼らからすれば言語ではない。断じて只の言語の当たり前がない。正真正銘  
の不可解だ。では、ただの日本語はなんだろう。それが天祥地瑞と縄文時代の言葉だ。  
もともとただの言語だった日本語が壊れたにすぎない。だったら戻せばよい。もとの昔に  
かえる。ただそれだけだ。

アとザは通常、ナニナニでないよ、コレコレだよというふうを使う。上であるということは下でないであり、下ではないということでは上であるということだ。例えば上の場合では上だよ、下でないよということを英語では、ザ ハイ、ア ローという。その反対もある。下だ。それは、ア ハイ、ザ ローになる。アップとダウンはそれと同じに説明すればアップの反対がダウンだ、ダウンの反対がアップだ。それなら比で説明出来るからザ アップ対ア ダウンの比はア アップ対ザ ダウンになるのだ。

無いと在るを説明すると、お茶を飲もうとするがテーブルにお茶が無い。そこでお茶を淹れる。そしてお茶を飲む。テーブルの上で、無なお茶が在るになって、無いになる。無いが在るになって、無いになる。人間の活動で変化しない在ると無いもある。淹れた事実は動かせない。人間の活動で変化しない在ると無いもある。

あれば出てくる。試行錯誤を繰り返して必要を選択し不要を排除していつても、時空間にそのものが無ければ純度を上げていくことは出来ない。砂利に砂金が無ければ砂金は採れない。初め、砂金それ自体は、砂金として存在してはいない。影も形もない。しかし砂を掬って行くうちに砂金として現れる。無いものが在るに成る。この人間の活動で変化する無いを英語ではネバーという。

時空間は在るがそれ自体は無だ、変化しない不変だ。その中でお茶が有るとか無いとかいう。この有る無いを超えた時空間の無いをネバーという。お茶が有る無いの無いをナンという。人間の活動で変化を起こそうという時にネバーを使う。盤古不変を現すのはナンを使う。在る無いの関係を表す無いにはネバーとナンの二通り在るのだ。

ナンの、あるであるでは、オン イエス ドウーであって、ナンの、ないでないでん

は、オフ ノー ノットであり、ネバーで、あるであるでは、ザ ドス ハブである。  
ネバーで、ないでないでんは、ア デス ヘビーだ。誰も言わない日本人。上の反対が、  
下であり、下の反対が上である。アとザはただそれだけ。それが正直だ。それだけなのに  
日本人は誰も気が付かない。学校ではだれも言わない。

比のコンビネーションは肯定と否定だけではない。現れると消えて無くなるにも当ては  
まる。デスとドスの奥義だ。ドスは出てくる。デスは消えて無くなる。英語ではアザに並  
んで重要な使い方をする。必要選択と不要排除が出来る。アとザで必要と不要を決め、デ  
スとドスで選択と排除をする。

砂金採りだ。砂金採りをイメージする。すると川で皿に砂を盛り、水で洗い流す。する  
と比重の重い砂金が皿に残る。それを集めるのが砂金採りだ。これを文章にすると

砂金選択、不純物排除である。

砂金選択、不純物選択は要らない。

砂金排除、不純物排除も要らない。

砂金排除、不純物選択も要らない。

必須なのは砂金だけだ。

ザ ゴールド ドス

ア ゴールド デス

ザ インピュリティー デス

ア インピュリティー デル

ということだ。

漢語の奥義

## 漢語の仕組み

漢語は漢字から出来ている。基本的に漢字だけでほかの文字が入り乱れることはない。漢字は感じである。漢字は日本語の仮名である。漢語は漢語の仮名だけで出来ている。

漢の時代、司馬遷が史記で当時使われていた漢字を編纂し、歴史書としての基礎が出来た。その史記の中で漢語の起源が出てくる。歴史の起源を示す史記の中で最初にまとめられたのは、漢語の起源なのだ。漢語で漢字は伝説と神話から始まる。それはすべては盤古と地皇氏と人皇氏などの三皇から始まったと言われている。

何故、伝説と神話から始まるのか。それは当時の人が言葉の本質を良く捉えていたからだ。伝説と神話を語るのは、伝説と神話を持つその特徴故だ。伝説と神話を語る時、人は素直にその話の世界に引き込まれ自らをヒーローに重ね合わせ、血湧き肉躍る世界に飛躍する。それが言葉の本質からすれば大事だからだ。

漢語は盤古から始まる。漢語で盤古が現すのはあらゆるすべてである。漢語で、すべての源は盤古ということだ。あらゆるすべてが盤古ということだ。伝説と神話はロングロングアゴーであり、その語りが民族の無限を語る。言葉の本質を現すとすれば最初に持つて来る言葉は何か。言葉の本質を最も現す言葉を最初に持つてくる。言葉の本質はあらゆるすべてだ。だから伝説と神話を持つてくる。そこで漢語では象徴として盤古を持つてくるのだ。

古代も現在も時空間自体に変わりはないように古代人も現在の物質文明の物理学と同じ

認識にんしきをしていた。例たとえば盤古ばんこ、科学かがくの用語ようごではフィールド フォースとでもいうべきか。伏犧ふつぎに女希じょきに神農しんのうは、パリティカルにウェイブにエフェクトか。あるいは、伏羲ふつぎと神農しんのうと黄帝こうていは、バキウムとストロンチウムとコンチニウムか。または天皇氏てんこうしや地皇氏ちこうしや人皇氏じんこうしが、アトムやエレメントやマターというべきか。

人間の考えることは古今東西ここんとうさい差がない。言葉ことばは基本的きほんてきに何処どこの国くにでも何処どこの言葉ことばもみな基本きほんは同じである。科学かがくも宗教しゅうきょうも差がない。古代人こくだいじんも現代人こんだいじんと同じに考えていた。そして科学かがくでいう命題めいだいの使い方が漢語かんごにもある。

それは「ム」の使い方である。その伝説でんせつはかつて東ひがしの海うみに大きな島しまがありそこがすべての文明ぶんめいの故郷こきやうである。だがある時とき、その島しまは突然とつぜん消えてなくなつてしまつた。しかし必ずまた現れるという。その島しまの名なを「ム」と言いつた。そこから今いまはないが必ず現れるという意味いみのないを現す語ごの「ム」に無いの字じをあてるようになったという。それに対し消えてなくなるを現す語ごには夢ゆめの字じを使うようになった。この夢ゆめの字じは煩惱ぼんのうを示す。

漢語かんごで盤古ばんこと女希じょき伏羲ふつぎ神農しんのうの關係かんけいはフィール ドフォースとパリティカルにウェイブにエフェクトの關係かんけいであり、それはあらゆるすべてとその構成要素こうせいようその關係かんけいを示し、すべては時空間じくうかんと三つの作用さようで成り立つということだ。そこから必要ひつようを選択せんたくし不要ふようを排除はいじょするといふこととすべて成り立つ。

必要ひつようを選択せんたくするには漢語かんごでは無いの字じを用い不要ふようを排除はいじょする時には夢ゆめの字じを使う。これは無いの字じと夢ゆめの字じの漢語かんごの特徴とくちゆうから来ていて無いの字じは必ず現れるであり夢ゆめの字じは必ず消えてなくなるからだ。

何処どこの言葉ことばでも当たり前あたりまえに、言葉ことばであらゆるすべてを構成こうせいする要素ようそから、必要ひつようを選択せんたくし

不要を排除するという営みがある。漢語ではあらゆるすべての初めの盤古から構成要素の女希と伏羲と神農になり、それを無いの字と夢の字で練り上げる。そして目的とする理想を完成する。どこの言葉もみなこの営みを大事にしそれが言葉の奥義になつてゐる。当然この正直を逆手に取る奴や逆様に取る奴や反対に取る奴は嫌がられる。

この無いと夢の關係は相互作用して存在にはいろいろあるが、觀念が存在する以前にも以後にもある實在そのものに、あるものは人間の意志を超えてゐる。人間の意図では扱えないあらゆるすべてにあるものが出てくる。人間がどんなにがんばつても変えられないしどんなに不本意でも在れば出てくるしどれほど欲してもないものは出てこない。だが實在は常に人間の意図を超える幸福を用意する。誰にでも榮光が輝く真善美愛のほうに諸悪より強烈に作用する。善であれば幸せになるように物理は出来てゐる。

人間がジタバタして天然をかき乱し、全体が善に向かう志向性を狂わさない限り、人間は幸せに生きられる生き物なのだ。パニックに落ちて自滅する愚かさは夢、故に起こる。人類は樂園の中に刑務所を作り自らその囚人になり、苦役を自らに課して苦しんでゐる。人間を超えたあらゆるすべてに不安を感じ、真善美愛なる天然自然のご意向を理解したがないのは自分が誤差つまり夢になつてゐるからだ。

あらゆるすべてを言葉で必要選択不要排除して何をするのか。その公理を人間の意向に使うから、誤差が生じ、箱指したようにうまくいかないから不安になる。なにか悪いことが起きたらどうしようとか不安になること自体、人間が人間の意向を優先してゐる。それが夢だ。本来、無い森羅万象が善そのものに見えることだ。その運用はあらゆるすべてと共鳴できるかでありそれは善であるかないかなのだ。正直でないから夢なのだ。正直な

ら無いだ。

言葉の運用が無いが夢かが、漢語の値打ちを決める。素晴らしい無いの者ほど評価されるが夢の者ほど評価されない。相手の無いと夢の運用で相手の価値が分かる。それが漢語だ。人生を全うするには無いの使い方というのが漢語だ。あらゆるすべての運用は善にゆだねるべきであり、またすべてを善にゆだねられる者ほど高い評価を得る。善をなせる者ほど無いの尊い運用が出来るものなのだ。

悪人のあらゆるすべての運用は夢であり善人のあらゆるすべての運用ほど無いだ。あらゆるすべてのには真善美愛しかない。それが漢語の奥義だ。何でもありは正直そのもので悪は觀念上の存在で悪人が夢を使わない限り現れない。森羅万象の慈悲を説くのが漢語でありそれを証明するのが漢語文化圏之長としての中国の役目というのが中国の大義である。

## 無いと夢の運用

では、言葉を使えばなんでも出来るか。いいや出来ない。なぜならあらゆるすべてにあるものしか出てこない。あらゆるすべてはなんでもありということだが、それがなんでも出来るということでは無い。これは実在であり觀念ではない。觀念で理想を掲げても実在しなければ出ない。本来無いの字と夢の字はあらゆるすべてから觀念を消し、実在を取り出す。觀念を取り出すのではない。実在を検出するのに使う。

人間はなんでも出来る、不可能がない、というのでは実在を無視している。人間が觀念で言っても実在でなければ意味がない。森羅万象は実在する万能でも人間自身は万能では

ない。それを人間が万能だというのは人間が陥りやすい過ちだ。観念では実在しないから観念だ。実在は観念で否定しようが肯定しようが実在は実在だ。理想が観念であり実在しないなら実現しない。何でも出来るは、それが実在故に出来るのか、観念上で出来るというのか、では意味が違う。

全知全能は全知全能なるが故に正邪真偽共に誤ることはないが、人間は全知全能ではないから正邪真偽共に誤ることがある。人間は言葉の運用を誤ることがある。完璧ではないから実在と観念の運用を誤ることがある。いつも必ず成功するとは限らない。漢語の奥義は盤古の万能であり全知全能だ。そして女希伏羲神農は全知全能ゆえに無いと夢の運用を共に誤ることはない。漢語の始まりの盤古の意味が、これだ。

実在は観念を越えている。観念故に、実在が在るのではない。実在の上に観念がある。観念は実在を越えない。観念で出来るのは実在を認めることだ。ところが人間は観念に囚われて観念に実在を従わせようとすることがある。それが夢だ。そして実在を認識するのは無いだ。

言葉でいうだけなら、なんでも出来る。不可能はない。万能であることも成り立つが、実現するのは、無いの字が成り立つ時だけだ。どんなに念じても時空間になれば無い袖は振れぬ。無いものを出そうとするは夢の字である。誤解しやすいから気を付けたほうがいい。

では、時空間には何がある。天を押し地を見よ。大宇宙の運行の正確さ。自然界の美しさ。さながら大神殿のようにではないか。それは森羅万象とは真善美愛が蓄積されるように出来ているからだ。諸悪は消えてゆくのだ。至善至愛が無いの字と馴染むが故に蓄積され

る。愚か者は夢の字故に消えていく。

本来、無いの字は公共の福祉や基本的人権を尊重するものなのだ。ただの当たり前ほど出てくる。悪いことは本来、実現しないはずだ。それが漢語の奥義だ。その無いの字を、研究開発して漢語は出来ている。出てくるのは至高の愛というふうには無いの字は使う。消えてなくなる諸悪の夢の字というふうにする。

これは珈琲やお茶の淹れ方と同じである。お茶は茶漉しに茶葉を入れお湯を注ぐ。湯飲みに注いで出来あがり。茶漉しに穴があれば茶葉とお茶が混じり、飲み物にはならない。しつかり越せるのが濾過だ。必要だけを濾過する漢語が「ム」だ。漢字では濾過は文字で六夢武無だ。

## 仏教と漢語の運用

漢字は中国の国字であり中国は仏教文化圏である。当然、漢語は仏教と連動して発展した。今から一千年前、当時の中国は東洋の超大国であった。仏教の奥義と漢語の奥義は、密接な関係がある。漢語に無いの字と夢の字があるように仏教にも同じ哲理がある。それは仏性と煩惱である。仏教も、やはり漢語と同じで、構造も同じだ。初めに始まるのは、盤古のあらゆるすべてであるように仏教では無常である。人は無より転じて生を拾い、また無に帰る無常観である。

無常観の無とは、目に見える目の前にある形ある物いつかわ滅すの在る無いや、机が在る無いとか、卵が一個無くなったとかの、姿形、色艶の在る無いの無いではない。無常観

はあらゆるすべては無であると説く。その無が有無を超えた無であり、有る無に関わらず存在し変化の根源でありながら、それ自体で完結し自身が変化しても、なおもそこにいる無。その無が無常である。

無常より転じる時、己が無限から連なる万物の大義を見越すのが仏性である。ああ万物は一体だ、草の片葉をも語止て楽しく歌っている、なんと有難い、もったいないことかという大御心が仏性だ。

それに対し形あるもので推し量るのが煩惱だ。こちらを選んだほうが有利か、あちらのほうが世間の評価が高いか、将来性はそっちのほうが、など、損得勘定の欲心で考える。それが煩惱だ。

この違いが仏教の本質だ。大御心で考えれば当然、公共の福祉や基本的人権を志向して生きていくことになる。人生を達観し晴耕雨読のようになるだろう。欲心ではどっちにしようか迷い、あちらにはおべつか、こちらにもおべつか、そして八方美人の結果、どちらからも信用を失い、総スカンということになる。それが煩惱。

この違いを示し、人が生きるのは仏性で、そのための教えが仏教だ。禅宗や密教が説く仏教や漢語の教えは、この宇宙の本質に根ざしている。その本質の構造を言葉で表現することに人類は一所懸命だった。人類の興亡の歴史はこの一点に集約されて来た。そしてこの有無を超えた無が、宗教では共通の奥義である。

それは見事に対象になった比になっている。漢語の無いの字は仏教の仏性を誘発する。その仏性は宗教の有無を超えた無を誘発し、有無を超えた無が漢語の六夢武無を誘発し、六夢武無は漢語の無いの字を誘発するあらゆるすべての循環が出来ている。

どこの国家も民族も文化も文明もその根幹をなす人間の思索の形態は、古今東西変化が無い。全く同じだ。みな、最初にあらゆるすべてがあつて、それを構成する要素があつてそれを濾過するキーワードが在る構造になつてゐる。

漢語では取り出すときには無いの字を使い消去するときには夢の字を使う。当然希望には無いの字を使い絶望には夢の字を使うことになる。漢語では無いの字は普通は、希望を連想するし夢の字は絶望を連想するのが漢語であるということだが、日本人は漢語を輸入するときここを取り入れなかつた。

英語も漢語も取入れる段階で三五教の自由行動を排除する政策のための言語になつてゐた。そのために自由行動を助長する漢語本来の無いの字と夢の字の使い方は廢れて無いの字は無いの字本来のクリエイティブが改悪され、不活性化したクリエイティブになり夢の字は、改善され希望を現すようになった。

### 霊界物語と宗教

ウラル教は塩長彦を主宰神として八王を中心に常世彦が八王大神として治める宗教である。常世彦はウラル教の教義に塩長彦の理論を使う。塩長彦は盤古大神ともいう。盤古は中国の神話で宇宙を創造したと言われこの盤古が盤古大神塩長彦である。

三十五万年前のウラル教はカミイイズムの雛形であり、カミイイズムの強国はロシアと中国である。国祖失脚後の大洪水までが戦後ロシアとアメリカの対立の時代で、大洪水がカミイイズム陣營の崩壊であり、大洪水の後には分裂し、キャピロイズムになつたロシアは

バラモン教バラモンきょうになつたウラル教ウラルきょうで、カミーズムカミーズムのまま独自の発展はつてんをとる中国ちゆうごくはウラル教ウラルきょうの残党ざんどうである。

中国ちゆうごくが盤古ばんこを祖神そしんに頂いたくように中国ちゆうごくはウラル教ウラルきょうの神かみの塩長彦しおながひこの教えおしが色濃いろこく残のこる。中国ちゆうごくは千年せんねん前まえも強国きやうこくだつた。当時たうじの中国ちゆうごくは仏教ぶつぎやうと律令制りつりやうせいで皇帝てうていにより統治てうちされていた。日本にほんや世界中せいかいじゆうから留学生りゆうがくせいが来きて学まなんでいた。日本にほんはそれに学まなび天皇てんのうを中心ちゆうしんとした仏教律令国家ぶつぎやうりつりやうこくを作つくる。それは縄文時代じようもんじだい終焉しゆうえん以後いごの一千年間いつせんねんかんの宗教しゆうぎやうの時代じだいの爛熟らんじやくである。それは古神道こしんどうや、神仙道しんせんどうや、仏仙道ぶつせんどうが、護国鎮守ごこくちんしゆの奈良東大寺ならとうだいじの大仏だいぶつとして宗教しゆうぎやうが、完成かんせいした時代じだいだ。

仏教ぶつぎやうは宗教しゆうぎやうとして完成かんせいするが、それには中国ちゆうごくの漢語かんごが大きく関わかかつてゐる。四八音よはねの響ひびきを推敲すいさうし練り上げ濃縮還元のうしゆくかんげんするために、漢語かんごの仮名かみなの漢字かんじの無いなの字じと夢ゆめの字じを使い込つかんでいく。漢語かんごが「ム」という四八音よはねの響ひびきを使い、無いと夢ゆめの字じを使い、仮名かみなの漢字かんじを配列はいれつする。その技法ぎほうが六夢武無むむぶだ。

漢語かんごの「ム」とは無いであるが、全く無いというのが漢語かんごの夢ゆめの字じだ。夢ゆめの字じの全またく無いなら想像そうざうも出来できず感覚かんかくすらできないはずだが、少すくなくとも何かなにが引ひつ掛かつたから無いと言いえたのだつたら、それはどこにあるというののが、無いの字じである。

だから必要ひつようを取り出だして不要ふようを消けし去さる技法ぎほうが生うまれ発展はつてんする。それがかつてあつたらゆるすべての故郷こきやうであつたが忽然いつぜんと消きえ去さり、いつかまた現あらわれるという伝説でんせつの東あづまの海うみにあつた島しまの名なが「ム」というから、今いまはないが必ず出でてくるの無いの字じを「ム」というのだ。目めが覚さめれば消きえてなくなる儚はかない幻まぼろしを示しめす夢ゆめが、必ず消きえてなくなるに使う字じになつた。

当然盤古たうぜんばんこも無いの字じと同じである。それが国常立命くにとこたちのみことの三五教あなないきやうにはないウラル教ウラルきょうの主神しゅしん

の塩長彦の思想だ。天祥地瑞や縄文時代、日本は世界中の言霊を取り入れ推敲していた。それが出来たのは四八音の響きを追求したからだ。最高の比を和を以て尊しとなす、風潮が当時の日本には漲り、経世済民を為し平和原理に勤しみ、超能力を磨き、天然自然成分の増大に余念がなかったからだ。

だが霊主体従の始まりのように縄文の終焉と共にその風潮は廃れ同時に仮名を濃縮還元することも衰退し、仮名を薄めることばかりし始め、言霊がぶつ壊され草の片葉をも言挙する言う霊になつて腐敗し、とうとう言霊が幽霊になつて、お化け幽霊になつていった。天然自然成分が散財され、人間成分が切り売りされお金に変えられていく。社会は退廃し犯罪が蔓延る。

太古から世界中で伝えられてきた、不思議な方法で来た高貴な御方が、我我に文明を授け必ずまた現れると再会を約束し去つていったという言い伝えは世界中にいつの時代でも伝わっている。縄文の終焉以後の一千年間の心霊を拜ませる宗教が爛熟する像法の世、その像法の世の一千年間が終わり、宗教が減じ物質の科学が爛熟する末法の世の時代になった現在、その高貴な御方との再会の約束を果たす時がきた。それが、アイランド「ム」の復活である。アイランド「ム」はアイランド パトモスである。それが一輪の仕組みだ。漢語の奥義は、常世彦のウラル教の奥義で、盤古大神の奥義だ。中国の神話の盤古が、伝説のアイランド「ム」であるようにそれは無いの字と夢の字にかかってくる。その土壌が宗教として、仏教が栄えるものになる。それは霊主体従から山河草木の繰り返しである縄文の終焉以降の一千年の歴史だ。

宗教の奥義は有無を超えた無である。漢語の六夢武無と同じだ。煩惱が有無の無であつ

て仏性が有無を超えた無である。これが時空に響く四八音と響く漢語の奥義だ。何かあるが分からない何かとは時空に響く四八音でありそれを引っかけるアンテナが中国で漢語が仏教と出会い花開いた。世界の歴史で自国の言霊が栄えると強国になる。強国になりたいなら立派に通じる言霊を樹立すればいい。

中国で漢語の仮名の還元濃縮の仕方は、在ると無いを扱う無いと夢の文字の使い方である。全くないならイメージすら出来ない。従って全く無いのは、本人にとつて全く存在しないである。当然何かに感じるなら何かあるはずだ。それをどうやって見つけるか。その時、盤古やアイランド「ム」の伝説と神話を持ち出す。それは漢語の原初であり訓読みの仮名の象徴である。伝説と神話は様々なイメージやビジョンに彩られイマジネーションやインスピレーションの源郷である。

それは中国で太古から伝えられ中国で蓄積された膨大な四八音の響きの集大成である。中国の地に鳴り響く四八音の響きを長い間かけて人人が感受してきた。それが伝説と神話として漢語の仮名である漢字の音声基底思念をなしている。その漢字の配列を決めるのは無いと夢の字の関係をはつきりさせることである。

だが受験勉強の無いと夢の字の運用は漢語本来の運用からすれば間違っている。日本語には文字を配列し、正反の比をはつきりさせる運用がない。英語のザドスハブやアデスヘビーのような比をはつきりさせる運用がない。英語で不明瞭はオカルトで明瞭がオルガナイザーであるように、漢語で比の和の不明瞭は夢であり、明瞭は無いである。

古の賢者明哲が超能力を発揮したことが示されているが、どうやってその能力を発揮したか。それは天祥地瑞や縄文時代の生活技法にある。言霊や八尋殿やヒイロカネと言っ

た生活技法が在ったからだ。それは中国にもあつた。漢語の山が八尋殿でヒヒロカネは漢語の丹である。気が霊で経絡秘孔が座である。言霊が無いで曲言が夢である。英語では八尋殿はピラミッドで、ヒヒロカネがトリスメギストス。気がサイで座がレイである。言霊がミラクル グレートで、曲言がイングリシユカルイングリツシユである。

かつて地球には全地球規模でピラミッドトリスメギストスネットワーク文明が栄えていたがそれが衰退し伝説と神話になつた。つまりアイランド パトモスも、漢語の盤古もアイランド「ム」も、何処へとも無く去つた高貴な人々が残した再会の約束も、この失われた真実の復権である。この無いと夢の字の真実は言霊の真実でありこのことを我我現代人に投げかける。四八音の響きとの交流は衰退したが無くなつてはいない。

地球人が言霊を正しく使えるようになるのを高貴な御方は待っている。高貴な御方とは伝説と神話の神神である。言霊を伝えることは高貴な御方と同じパワーつまり伝説と神話で神が起こした奇跡、つまり古の賢者明哲の超能力超科学を伝えるようになることだ。それは八尋殿やヒヒロカネや霊や座を作れるようになることだ。

古代ではそれらを作つていたから物理学や数学もあり建築土木技術もあつた。時空間の構造の解析も進んでいった。世界中のかつての古代社会では、縄文時代と共通の英知があつた。同じ地球の時空間を解析するのだから当然、宗教や科学、数学や物理学や工学も、あらゆるすべてそのものを表現する語が似通つてくる。隠身言霊や仮凝身輝身や驅身限身も女希や伏羲や神農で、バキュームやストロンチウムやコンチニウムである。



場<sup>ば</sup>力<sup>か</sup>と異<sup>い</sup>星<sup>せい</sup>  
の真<sup>しん</sup>実<sup>じつ</sup>

## 天体と時空

靈界物語には太古の昔、地球が太陽系内の複数の惑星と交流していたことが出ている。地球以外の天体から異星人が地球にやつてきて神様に成ったと書かれている。大國彦のこゝとだ。天王星から来た大國彦は地球人と全く同じである。大國別という子孫がいるのだから地球人の女性を妻に娶り子をなしたはずだ。他にも金星との交流の話も出ている。太古の八王八頭に安置された神宝は金星より送られたことが出ている。即ち、金星の神とは、金星の人である。

塩長彦は天之若宮から地球に来た。常世彦は天之鳥船で、天之御三體之大神に談判に行く。それならば天之若宮は地球に来る異星人が必ず立ち寄る地球にすぐ近くの天体のはずだ。それは月だ。

靈界物語を表田のアザムで推敲すると天之若宮が月ならば靈界とは宇宙である。靈界には隱世と顯世の関係とあの世とこの世の関係の二つがある。そうすると、異世界とは実は天体や時空のことである。隱世は場で、顯世は力である。この世は今いる天体であり、あの世は宇宙文明で太陽系宇宙連合や銀河系宇宙連合や銀河団宇宙連合や超銀河団宇宙連合などである。

隱世とは時空の背後のことである。通常空間のその背後の場のことである。時空間は三つから成る。時空間は無が爆発して膨張し宇宙の晴上がりで出来た。爆発以前はバキウムであり、爆発から宇宙の晴上がりまでが原始的時空間で、晴上がり以降がコンチニウムと原始的時空間の名残のストロンチウムである。コンチニウムとストロンチウムの境目が

れいかいものがたり てんたい  
 霊界物語の天体

ちきゅう 地球	こくそ 国祖	
はてな	てんのごさん 天之御三 たいのおおかみ 体之大神	あめのわかみや 天之若宮
てんのうせい 天王星	おおくにひこ 大国彦	
きんせい 金星	きんせいじん 金星人	

ひょうた  
 表田する

ちきゅう 地球	こくそ 国祖	
つき 月	てんのごさん 天之御三 たいのおおかみ 体之大神	あめのわかみや 天之若宮
てんのうせい 天王星	おおくにひこ 大国彦	
きんせい 金星	きんせいじん 金星人	

かくりよ 隠世	ば 場
うつしよ 顕世	か 力
あの世	うちゅうれんごう 宇宙連合
この世	いま てんたい 今いる天体

宇宙の地平線であり、バキュームとストロンチウムの境目にも宇宙の地平線がある。

チカラを漢字で書くとその形はカタカナの力と全く同じである。それは古代人の時空の感覚に由来する。これは訓読みの仮名で多国語を表田に並べてみれば分かる。良は、ウシ

トラである。馬鹿はウマシカと書く。馬鹿は英語ではトラウマである。並べてみればウシトラウマシカである。

正直者は馬鹿を見るは、正確には正直者はウシトラを見る、愚か者はトラウマを見るである。これはクリエイト マイクロ プロセスサルック フィールド フォースである。フィールドは場でありフォースはチカラである。

ウシトラがフィールド フォースで、それが場とチカラで、それが場力である。これは時空の循環系から、バキュームに場の字を当て、ストロンチウムとコンチニウムにチカラと書いて力と読ませる字を当てる。

訓読みの仮名で考えると馬鹿はトラウマであり場力はウシトラである。霊界物語は良の物語である。良は場力の物語である。隠世は元の世界で、カタチに成る前である場のことで、顕世はカタチとして現れた力のことである。あの世とこの世は星から星への天体同士のことである。霊界物語八十一巻に後、三十九巻を加えると正確には場力と星の物語である。

## 大脳が証明する言霊

だが、このアとザを使いこなせる日本人がほとんどいない。使いこなせる三五教の信者

がほとんどいないのだ。それを大神が嘆く。一厘の仕組みは国常立命の時代から三五教の悲願であるが、天祥地瑞に在りながら靈主体従から山河草木で失われた何かが、三五教にあつて、それがバラモン教やウラル教には残つていて、そこを民が嗅ぎ分けて国常立命や素盞鳴命が支持されず、大国彦や常世彦を民が指示するのだとは分かつていたが、それがアとザだと大神は気が付かないでいたのだ。

靈主体従以来、今の今まで日本の三五教の受験勉強で教わらない。アメリカやロシアよりも言霊の研究は劣つてゐるのだ。お筆先を読んで仮名をせせら笑う今時の人民が、ハブとヘビーの英語の使い方を何回か亜米利加人と話せば気が付くだらうがアとザに気が付かないだらう。三五教自身が仮名を粗末にしていることに気が付かないからだ。言霊を否定する受験勉強に英語が分かるはずがない。

古典の仮名の古史古伝や万葉集や大祓祝詞や古事記は、受験勉強では解き明かせない。古典はアとザの英語で読んだほうがよほど説き明かせる。四八音の響きは英語で考えたほうが分かりやすい。古典は外国語で考えたほうが分かる。なら古典の翻訳こそ一厘の仕組みだ。最高の比の和をもたらず和を以て尊しとなすなら比を推敲し最善をなさねばならぬ。しかしそれには訓読みの仮名で四八音の響きの比を以て和となす尊しがなせるかどうかだ。だがなせやしない。にもかかわらず三五教の受験勉強言語の有様。なんとするか。英語ではアとザは暗黙の前提。入門にして奥義。あえて英語文化圏では自分から言わない。手の内は明かさないものだ。そこで相手のアとザの出力を伺うのが習い。そこで外交の席などではアとザはなにかねとは言わないものだ。自分で身につけていくものがアとザだ。当然亜米利加人や英語文化圏から交渉の席でアとザの話を日本に持ち出してくること

はない。彼らは日本人がいつ気が付くか見ている。気が付かないうちは交渉の外。相手にされない。

アメリカやロシアは靈主体従の時代から日本がアとザに、いつ気が付くか、いつ気が付くかと見ていたが、とうとう気が付かないと思つてゐる。だがインターネット時代のここで一厘の仕組みが炸裂すればお土が唸るぞよ。完全に大国彦や常世彦はお手上げた。そうすれば高姫も黒姫もお手上げた。妖幻坊も兇党界もお手上げた。

アメリカで研究された言霊を見てみると、仮名を否定する迷宮の受験勉強よりもよほど素直に出来ている。望み給へ叶え給へ喰わせ給へ吞ませ給へという今時の日本の祝詞よりも英語の払い給へ清め給へ守り給へ幸へ給への四八音を訓読みの仮名で扱う言霊のほうがよほど素直だ。

天祥地瑞にありながら、靈主体従から山河草木で失われ、縄文にありながらその終焉とともに失われた英語の真意で、ザ ドス ハブとア デス ヘビーの比を和を以て尊しとなす、この一厘の仕組みは英語の進化である。受験勉強にはない仮名の英語のシステムを用いると、祝詞や万葉集や古事記などの古典や古史古伝がよく分かる。そもそも、古典や古史古伝の理解は、濃縮還元したカルピスを上質の水で適度に薄めることと一緒であり、四八音の響きを水ぶくれさせるだけの外道なカルピスの受験勉強ではない。

受験勉強はアザの認識を失つたが古代の日本にはあつた。今の日本人に言霊が解せないのは、仮名の比を和を以て尊しとなすことがないからだ。縄文の古代では仮名を用いて比をなしていた。その運用は今では形式化形骸化しているが、断片的に伝わっている。失われた認識は思い出せばよいのだ。

言靈が幸う時、必ず栄える。アメリカが栄えるのは最もアメリカが言靈を幸うからだ。創造性が発揮される時、必ず言靈が幸う。英語はザ・ドス・ハブとア・デス・ヘビーでどういうふうと言靈が幸う認識をしているのか。それは日本人の常識にはないが亜米利加にある常識、在ると無いの違いだ。

ハブがドスしてこそザということなのだ。これは研究開発する上で重要な思想だ。誠が出るからこそ、ありのままということだ。それに對し嘘は消えてなくなるから不安定というのがア・デス・ヘビーだ。

これは今までにないものを作る時、正直が出るという思想になる。役に立つ研究開発はザ・ドス・ハブで、成功するのが当然で失敗するはずがない。成功しない失敗する研究はア・デス・ヘビーだということになる。必要選択が、ザ・ドス・ハブ。不要排除は、ア・デス・ヘビー。必要があるが今はないが必ず現れる誠、不要であるがここにあるがいずれ消えて無くなる嘘。それを間違ひなく正直するのが英語だ。

四八音の響きを表田の比にして必要選択と不要排除の比にするアとザでハブをドスしてヘビーをデスすれば何でも出来そう。事実そういう考えもある。いわゆる光明思想だ。だが世の中は思い通りにはならない。人間がイメージしても無い物はない。いわゆる虚構だ。例えばドラえもん。確かに毎週、金曜日夜七時にチャンネルを合わせればみれる。だが野比家の現住所は特定できない。思い通りになるのには前提がある。研究開発する時に実現できるのは四八音の響きの現れたものである時空間の中に在るものだけだ。

なら肯定真善美愛にはドスを使うか、ですを使うか。どちらが人間の頭脳にクリエイティブかネガティブか。それは最新の脳生理学を使えば分かるのだ。人間の聴覚は音声を

細切れにし連続させた音でも音声と認識することが分かっている。ドスとですを細切れにして連続化した音声にする。

音声のドスとですの音を二十分の一秒に分割し、つなげてドスドスドスやですですを作。これは意識では音声に聞こえないが、大脳は音声と認識するからこれをバックミュージックにして簡単な計算を試してみたり脳波を測定し、どちらがクリエイティブかネガティブか測定して見ればわかる。ドスがクリエイティブな測定結果が出るだろう。

### 隠身言霊は言葉か言霊か

常世彦や大國彦の隠身言霊は言葉か言霊かの違い。これが英語の奥義だ。というより、言葉の真実である。万国普遍の原理をこれほど端的に現したものはない。国常立命はそれを言霊と答える。常世彦はそれを言葉と答える。万民はそこを納得し常世彦を支持した。常世彦が言ったのは、すべてすべてと言っても、所詮はすべてと言っているに過ぎない。所詮、人間は全部と言っても一部でしかない。全部と言っても言うだけで全部ではない。すべてはすべてと言っている人間を含み猶且つ超えている。

万物は人間の営みの源さえも含み、人間の意識さえも含む。それを一介の人間に過ぎないくせに、ようも国常立などとしらふで大びつらに名乗れるものだ。自分はいかなることがあっても自らあらゆるすべてを名乗ったりしないと言った。自らあらゆるすべてを名乗る時、嘘つきになるからだ。私は、国常立命のような嘘つきではないと常世彦は言った。それがウラル教やバラモン教だ。

隠身言霊と言つても所詮、言霊と人間が言っているに過ぎない。実際に隠身言霊なら何でも出来る。物理法則だって変えられる。だがそんなことは出来ない。国祖がいうように隠身言霊を言霊と言つてはいけない。その論理は言えれば何でも出来るという論理になる。言霊を人間が管理できるという考えになる。文字や発音で言霊と言えればそれは文字や発音や思念で言霊と言っている。文字や発音や思念で何でも出来るか、いいや出来ない。言霊なら森羅万象そのものだ。だが実際には森羅万象を人間が扱えない。

言えばそのものなのか。そんなことはない。確かに不可能はない。だがそれは言霊側であり人間側ではない。言つてみたところで実際には言霊の立場には立てない。隠身言霊を言霊というはまっかな嘘なのだ。国祖は隠身言霊で嘘をつくことになる。国祖は自分が、嘘吐きだと気が付かない。自分が嘘で自分の良心や民衆を騙し討ちしていると気が付かない。自分は民の幸せのためにという信念を持ちそれを必ず実行するぞ、というその信念が国祖を嘘吐きにした。

国祖は部下たちに命じるが、しかし部下たちは国祖の言つてることが実は嘘だと気付いている。だが国祖に立つてつくなど恐れおおい。国祖が嘘をつくはずない、過ちを犯すはずがないと信じきっているから国祖を疑わない。そこで国祖の采配に何でもハイハイと何も従う。国祖はどういうふうにも部下に命令を出すか。国祖はいうだけ。あとは部下任せ。しかも部下が実績を上げてても天敵の常世彦の陰謀により部下を弁護せず有能な部下を失つていく。

国常立命がもしも言葉の真実に気が付いていれば、国常立命は部下を常世彦の陰謀から弁護できたはずだ。何故なら常世彦の陰謀は言葉の真実を用い、国常立命が気が付かない

嘘を指摘していたからだ。国常立命が常世彦が指摘した言葉の真実に気が付いていれば、常世彦と堂堂と渡りあえたはずだ。常世彦は国祖の氣付いていない盤古大神塩長彦の無いと夢の使い方や、大国彦のアとザの使い方に気が付いていた。国常立命が氣付いていない知らないアザムの使い方を使う。国常立命は常世彦のアザムを知らない。

なぜ民が常世彦を支持するか最後まで分からない。国常立命は民が騙されていると信じていた。民が、国常立命に従わないのは騙されているからだと考えた。そこで綱紀肅正を掲げる。だが民が国祖を支持しないのは、国祖が民を騙し討ちにするからだ。国祖は言っていることとして、アザムが矛盾している。国祖の采配はすべて成り立たない。国祖は成り立たない公理を証明しようとして民を使役するから民が反発する。

理論上は出来るとしても、実際にどうするか指示しない。何故なら国祖にも政策が無いからだ。国祖の一厘の仕組みはこの矛盾を含んでいる。観念上は出来るのだ。漫画や映画を作るようなやり方で一厘の仕組みと言った。確かにドラえもんがいれば何でも出来る、だが実際は磯野家や野比家の現住所を特定できない。実際にドラえもんが実在しないように国祖の政策は実現しない。国祖のご意向は理論上は分かった。だが観念に過ぎない漫画を、実際にしろと言われても困る。民は国祖に愛想つかしたのだ。

言葉の上でだけ成り立つが実際にどうするか一切指示しない。国祖は万民の幸福を、理想に掲げるが実際には厳罰主義で人民の自由を抑え込む。そして正直せいという。民は逆らうことも出来ず泣き寝入り。国祖はなぜ民が悪に走るのか分からない。それは地球の八尋殿を八王八頭にするからだ。八王八頭がヒヒロカネを生産しないからだ。国祖は、自分の矛盾に気が付かない上に、その矛盾を取り込んで三五教の基礎とした。誤った政策

を實行した結果矛盾は拡大する。

それが文字や発音や思念でしかない言葉、言霊として扱う考え方になる。それで出来た現代日本語の、ですますアイウエオ調和漢外来語混交文は、国祖の政策を端的に示す。三五教の政策は言葉で帳尻をあわせるばかりで一向に埒があかない。国祖は政策を一厘の仕組みと言われるが、国祖の一厘の仕組みはでまかせであつた。だからそれはようするに誤差に過ぎない。なら完全無欠と誤差をなくせばすべてうまく行く。国祖は、地球の本来あるべき姿を見していない。国祖自身の理念を信じているだけだ。

国祖は一厘の仕組みを言霊の仕組みというが、その言霊は因果応報の輪廻転生ではなくハッタリの嘘から出た誠だったのだ。比の和を崩し表田を崩し、命題が「真」なのに対偶が「偽」という考えを持った。言霊を言葉と考えるか、言霊と考えるかで一厘の仕組みの言霊の意味合いが全く違う。すべてすべてと言つても人間が言つたに過ぎず、すべてそのものではないように言霊は言霊と言つても所詮言葉だ。

そこを認めた上で国祖は自分が国常立を名乗るのが烏滯がましいと感じるべきだった。自分の教義が天則違反だと知るべきだった。天則違反を押しつけたから地球が混乱したのだと知るべきだった。だが敵のスパイや獅子身中の虫がここを、国祖が気がつかないように良の金神や賢者明哲が指摘したことを細工し良の金神や賢者明哲の自由行動のために、国祖のご威光が潰れたのだと良の金神や賢者明哲に自分達の不正の濡衣を着せた。そのために歴代の別室部長はここを誤解し今まさにこの問題が表面化している。

それは国祖が、なんとかして森羅万象との共鳴をなさんとする無抵抗な自然を返り討ちにする鑄型が現れたに過ぎない。地球人は自らの意思で自分の良心を痛めつけ抑え込む。

そして觀念上(かんねんじょう)にしか存在(そんざい)しない自分で思い描(か)いた自分(じぶん)になるうとする。それは森羅万象(しんらばんしやう)との共鳴(きやうめい)の破綻(はたん)だ。言葉(ことば)でしかないのに言靈(ことだま)というからだ。その無いと夢(ゆめ)の差(さ)だ。隱身言靈(いんしんごんごう)は言葉(ことば)か言靈(ことだま)かという時(とき)、人は言靈(ことだま)と繋(つな)がり、誰でも言靈(ことだま)を連想(れんそう)する。それが言靈(ことだま)だ。

国祖(こくそ)はだから言靈(ことだま)だというのだ。国祖(こくそ)に言(い)わせてもらえば、そうだ、確かに言靈(ことだま)というだけの言葉(ことば)だ。しかし、實際(じっさい)に言靈(ことだま)を連想(れんそう)すれば言靈(ことだま)というのは当然(とうぜん)である、神聖(しんせい)な言靈(ことだま)を敬(うやま)い言靈(ことだま)といつて当然(とうぜん)という。だがそれをいうとイメージが続(つづ)かなくなる。イメージしてる時(とき)、共鳴(きやうめい)状態(じょうたい)の時(とき)、隱身言靈(いんしんごんごう)を認識(にんしき)してない。自身(みづかみ)が言靈(ことだま)と化(か)し一体化(いつたいか)しているからだ。国祖(こくそ)のように言靈(ことだま)というところとられてしまう。意識(いしき)も仏性(ぶつじやう)も分裂(ぶんれつ)し煩惱(ぼんごう)になる。言葉(ことば)というと氣(き)が付(つ)けば言靈(ことだま)に浸(ひた)り、見渡(みわた)している。言靈(ことだま)という頭(あたま)がまっ白(しろ)で、ただ言うだけ、一体感(いつたいかん)が無い。それが觀念(かんねん)だ。

この言葉(ことば)か言靈(ことだま)かを説明(せつめい)すると言葉(ことば)というとなにを連想(れんそう)するのか、言靈(ことだま)と答(こた)えたとき何を連想(れんそう)するかだ。その連想(れんそう)の仕方(しかた)の違い(ちがひ)がはつきりする。言葉(ことば)というとき当然(とうぜん)言(い)えば言葉(ことば)だ。なら言(い)えば言靈(ことだま)になるか。なりはせん。真実(しんじつ)の言靈(ことだま)は言葉(ことば)を含(ふ)み、自分(じぶん)も自然(じぜん)も地球(ちきゅう)も、星雲(せいうん)も時空(じくう)さえ含(ふ)む。従(したが)って文字(もじ)や発音(はつおん)としての表現(ひょうげん)されただけの印字(いんじ)は書(か)いてあるだけ言(い)っているだけで、言靈(ことだま)そのものはそこいらじゅう、全部(ぜんぶ)言靈(ことだま)。

言葉(ことば)というとき言葉(ことば)の余(あま)りが残(のこ)る。例外(れいがい)のないルールはないように、言葉(ことば)の例外(れいがい)もある。言葉(ことば)と答(こた)えるとその例外(れいがい)が見(み)える。ルールとルールの例外(れいがい)とその相互(そうご)作用(さよう)であらゆるすべてだ。言葉(ことば)と言葉(ことば)の例外(れいがい)とその係(か)り方で言靈(ことだま)になる。しかし、言靈(ことだま)と答(こた)えればどうなるか。言靈(ことだま)だけあつて例外(れいがい)がない。つまり上(うへ)があつて下(した)がない方向(ほうこう)とか、頭(あたま)があるがつま先(さき)がない方向(ほうこう)が理解(りかい)できるか。たとえば口(くち)と肛門(こうもん)が一緒(いっしょ)、そんなの解(わか)らないだろう。それが言靈(ことだま)。

と答えることだ。

確かに表現するから名詞として扱うことは正しい。しかし名前として表現しただけだ。展示場で車を売っていたとする。カローラを二百万円で買ったカローラの前にあつたカローラと印刷された値札を持ってきて、これがそうだと言われたら詐欺だ。名前の値札に二百万円を出していない。車に二百万、支払ったのだ。それと同じだ。言葉を使うには、言葉と答える考えが必須だ。

ア アライブやア ローンといつても所詮表現しているだけで森羅万象そのものではない。森羅万象そのものを表現するとア アライブやア ローンである。ザ 森羅万象そのものを言うときはザ ア アライブだ。何故かと言うとすべてといつてもそういういつているに過ぎない以上、所詮一部だ。だからア アライブというのだ。だからザ アライブを排除してア アライブにする必要がある。表現上の言葉を排除して実在の言葉にする必要がある。

言葉は通常使えない。ザ アライブは成り立たない。だから英語はア アライブを模索する。そのための表田だ。受験言語は訓読みの仮名の表田のアザムの四八音の響きが極端に不明瞭だ。だから外国のほうで言葉だ、今の日本は曲言だというのだ。それを構築するのが他国語の多国語の田国語の一厘の仕組みである。だから四八音の響きの訓読みの仮名に頭を下げるようになるぞとお筆先はいうのだ。

常世彦のアイム ア アライブとアイム ザ アライブの違い。これが英語の奥義だ。というより言葉の真実である。国祖の隱身言葉を言葉というのは常世彦のアイム ザ アライブだ。三五教が表田のアザムに気づけば国祖は常世彦のアイム ア アライブが正し

い。隠身言靈は言葉だに気が付いて自由行動天則違反の三五教教義を修正し、本来あるべき姿の自分と誤差がない自由行動天則遵守に教義を修正し地球は収まる。

## 言靈の成り立ち

国祖には、場が無い。国祖のは場が見えない。混交文で場を考えるとイメージが分らない。国祖も混交文も時空の本質をイメージできないし、国祖も混交文もはじめから時空の根源を認めていない。国祖や混交文のいう言靈は、時空の本質ではないし、時空の本質と言靈が同じだと考えていない。本来言靈は実在する無限であり、時空さえ超えている。言葉で言靈と言つても言っているだけで言靈そのものではない。

三五教の国祖に遵守することが天則に遵守するという教義は国祖が場に取つて代わることで。これは特定の個人が森羅万象に取つて代わることで、それこそ天則違反だ。誰にでも場に原型があり、自身の場と友好することが場のご意向であり、何人たりとも場自身の肩代わりは出来ない。それを国祖が破戒したのだ。

三五教は、今まで言葉を言靈として考えてきた。それが思考を破綻させる。言靈として命令されれば平伏すしかない。だが本当に言靈か。真実の言靈なら、救済や安寧は完全に機能し収まりが付くはずだ。国祖は言靈言靈といっているだけであり、国常立命と名乗つてはいるが実際に森羅万象そのものではないのに宇宙の絶対神として命令をくだせば部下は、ははあー、と拝領するしかない。だがそこには場の破綻しかない。国祖の命令の仕方は天則を破綻させる。

国祖は地球の原型を何ら考えてはいない。国祖は慈悲を以て万民を愛せよというのがそこに場がない。国祖は觀念の理想を述べて命令する。国祖は森羅万象を鑑み地球の真理を何に思考してはいない。これは大きな問題だ。国祖は自分の思考が地球の場と一致していないことが分らない。自分の采配が地球を傷つけていると知らない。地球が痛めつけられるのが悪人の仕業と信じきり、実は国祖の命令が型になって国祖の采配の悪が現実に機能し実現して現れたに過ぎないと気が付かない。

それを言霊というのは表現上は正しくとも実在を扱うことにはならない。実在する真実の言霊を扱うには表現するだけと全く違うのだ。言霊を言葉と答えるか言霊と答えるかは一見すると同じように見えるが、表現するだけと、表現を含み尚かつそれを超えて実在する言霊を扱い一体化するのでは全く違う。言葉と答える時、表現するだけの言霊と答える場合を越え場が見える。言霊と答えると表現しただけだが、言葉と答えると言葉を越えたところも見える。

親が先か子が先か。それは違う。子がいないなら親ではない。子がいるなら親がいる。親子は同時に存在し始める。子が先か親が先かというのは間違ひ。自分が生まれて親子の關係になつて初めて親子になる。両親は先に生まれた人であり子ができて親と子は初めて親子になる。卵と雌鳥のどちらが先かというのは実は同時に存在し始めたのだ。鶏という生き物の卵が誕生した瞬間、その時に雌鳥と卵の実在が同時に始まる。

雌鳥が卵を産んでそれが孵ると雛になつて鶏になる。ならば先に生まれたのは卵か雌鳥かという問題の答えは、遡つていくと鶏という生き物が最初に誕生した時はいつかということになる。在る生き物が進化して鶏になつたとする。その時、鶏という生き物の卵を産

んだその時、まさに雌鳥と鶏卵が同時に誕生した。その時こそ鶏という生き物が誕生し、そこから雌鳥と鶏卵の繰り返しが始まる。

始め鶏はいない。鶏という生き物の元になつた生き物が進化して鶏卵を生んだ瞬間、その時に雌鳥に進化したのだ。このとき雌鳥と鶏卵の繰り返しの始まつた。その瞬間は鶏という生き物の元になつた生き物が進化して鶏が誕生したその時に繰り返しが始まつた。

このことは隠身言霊にも当てはまる。雌鳥が言霊で鶏卵が言葉にあたる。初めに言葉ありきか初めに言霊ありきかは、初めに鶏卵ありきか初めに雌鳥ありきかだ。実際には言霊は無限であり自分の存在する以前も以後もある。

実は初めに言霊ありきは親子になる前の両親のことだ。初めにあるのは確かに言霊だ。だが言霊と言っているのは自分だ。言霊は自分以前からあり自分の後も残る。言霊と自分の関係は自分が存在して初めて起こる。雌鳥と鶏卵が同時に存在し始めたように、初めに両親の言霊ありきがあつて、そこから自分が生まれここで言葉が生じ親子になつてから、言霊ありきと言葉ありきの繰り返しが始まる。

始めも終わりもないあらゆるすべての隠身言霊である、実在する無限の過去から無限の未来のなかで有限の一部が誕生し自分になつた。自分は有限であり本来は言葉ではない。有限の自分はすべてといつても言霊といつていただけで書いてあるだけ。実在する無限の中から自分が誕生し消滅するその間だけに言葉があり自分が存在する前や後は言霊である。言葉か言霊かを認識する自分が誕生し消滅するまでの間それこそが、実は有限であり言葉であり有限であるから言霊でない。

論じている自分が有限なんだから言霊のはずがない。国祖はそれをあたかも無限を扱え

る如く思考した。本来、隱身言靈は言葉か言靈かは思考する上で重要な必要選択不要排除を行う思索の形態である。即ち觀念に過ぎない言靈を排除し実在である言葉を選択するための問答である。実在しないを排除すれば実在するが残る。その問答は觀念の言靈を排除し実在する無限と連動する言葉を模索する。問答するとき、その問答の隱身言靈は言葉か言靈かを毎回問答すればよいのだ。

ところが初めに〇〇ありきと言っているのは誰か。自分だ。自分はいつ出て来た。初めに言葉ありき。神は言葉。言葉は神。神がすべてを造つたと言っているのは触覚で言葉を認識した自分だ。触覚が起こり記憶が成り立つた時点で、初めに〇〇ありきと言っている自分が出てくる。

実際にわかっている状態の秩序は初めに言葉ありきだ。実際は言葉ありきという秩序から出発する。言靈自身には初めもないから初めに言靈ありきではピントがぶれる。初めに言靈ありきでは言靈の前に何かあるのか。さらにその前にも何かがあるのかということになる。だから理解が実在实际から反れ觀念化し煩惱化し仏性が曇り思考が散漫になる。初めに言葉ありきならその前に無限があるということになり筋が通る。

英語や漢語はその危険性を深く認識し煩惱しまいと気を付ける。国常立命がこのことに気が付いていないと気が付いた常世彦はここを突けば国常立命の死角が取れると気が付いた。国常立命は用いないが塩長彦が無いと夢を用い、大国彦がアとザを用いることに気が付いた。そこからウラル教やバラモン教が誕生する。

英語や漢語が、なぜはつきりものをいうのか。それはアザムを証明する必要があるからだ。うまく表田で説明出来ねば、相手にされないからだ。当然、隱身言靈は言葉、初めに

言葉ありき、とするアメリカやロシアでは隠身言霊を扱うことに熱心になる。

だが日本の場合はどうだ。日本の学校は言霊を毛嫌いしアザムを教えない。この表田の訓読みに分類もしない。ただ外国の文献を持ってきて不可解な造語を造り、並べていくだけではないか。それは結局、あんだんて、あらゆるすべて、いけこいかえる、さをはかりますは、昔からある表田になるのに何故か、いかにも新発明新発見のように言っている。これは古の賢者明哲の使い古しの言い回しにすぎない。無限では実に初歩的な初歩にすぎない。なにを今更である。

仮名の世界では当たり前で言霊では当たり前なのにそれをいかにもものすごい三五教の最先端の研究成果であるかのようにいう。ということは三五教は言霊の有り難みを味わいながら言霊に感謝しない。言霊の性能を取り込んでわが物顔。三五教の成果でなく言霊を盗用している。なのに言霊に感謝すらしない。三五教が隠身言霊を解剖して混淆文にするからバラモン教やウラル教が天然自然を解剖し科学を造るのだ。

問題はそこだ。歪んだ三五教が言霊を解剖改造する。現行の日本国は仮名を認めず言霊を否定する。当然それでは場が見えない。古史古伝を否定して太古の昔に栄えた古代文明の伝承を否定する。日本の三五教はかつて地球で栄えた二つの世界から自分たちが生きてきたことを伝承している。だが三五教は自分たちだけで古史古伝の伝承や物証を独占し決して公開しない。真相を情報操作で消し去る。従って太古の伝承は消えてなくなつた。

その表田などの言霊のノウハウはすべて日本から消えた。元元あつたノウハウを避けて海外から輸入した知識を取り込む試行錯誤を繰り返した、その結果、表田を使わず表田にそっくりな、なんだか解らないものが出来た。その不可思議を使うと表田が潰れる。アザ

<p>かくりみことだま 隠身言霊</p>	<p>あうえおい調<small>ちよう</small>  あえいおう調<small>ちよう</small>  あおうえい調<small>ちよう</small>  表田のアザム<small>ひょうた</small>  五七調文歌調<small>ごしちちようぶんかちよう</small>  四八音の響き<small>よはねひび</small>  訓読みの仮名<small>くんよなか</small>  最高<small>さいこう</small>の比<small>ひ</small>の和<small>わ</small></p>
<p>まがことごとだま 曲言事霊</p>	<p>ですます  あいうえお調<small>ちよう</small>  和漢外来語<small>わかんがいらいご</small>  混淆文<small>こんこうぶん</small></p>

ムが潰れる。言霊が潰れる。それが混淆文だ。混淆文の成り立ちは言霊の否定である。ところが混淆文は曲言事霊を否定しない。

三五教は八尋殿とヒヒロカネや隠身言霊さえも越えるという政策を掲げる。だがそれは、縄文を否定してあらゆるものを解剖した。その結果、何も無くなった。人類は自分さえ見失い、路頭に迷う。できあがったのは、隠身言霊の例外、曲言事霊だ、八尋殿とヒヒロカネの例外、摩天楼にお金だ。

三五教の取入れて拡張する政策は自分の隠身言霊を受け入れることを拒否し否定しただけだ。三五教は自分の存在理由をどう考えているか。考えていない。三五教は国祖以来、支配の確立を目指してきた。

## 言霊、仮名

日本語が仮名を認めないでは困る。仮名だけの文章と和漢外来語混淆文の発想の違いは重要なことなのだ。日本語では仮名だけの文章は法律で文章と認められていない。法律上では和漢外来語混淆文でないと公式な文章とは認められない。

他国では公式に認められる仮名だけの文章。漢語や英語を見るとアルファベットや仮名が交じっていることはない。アラビア数字と記号が混じるが英語はアルファベットで漢語は漢字を使い、ほかの文字が入り乱れることはない。漢語は漢字だけ、英語はアルファベットだけだ。つまり他国語は仮名だけで出来ていることになる。英語や漢語はほかの文字が入り乱れたら正式な英語や漢語では無い。法律では文章とは認められない。

アルファベットだけで出来た文章は実は仮名だけで出来た文章であり、漢字だけで出来た文章は実は仮名だけで出来た文章。英語や漢語は仮名だけ。ご茶混ぜにしない。各語の文字はその文字の言語を母体としその文字はその言語を現しその言語はその言語を構成する文字でのみ現わされる。

文字は、その言語の積み重ねられた歴史によって意味が認識される。歴史は、その文字の命であり文字だけ切り取っても長い歴史と命は切り取れない。各語は歴史と命を大事にし、よその歴史を継接ぎして自分たちの歴史と命を現そうとはしないしそれが役に立たないことを実感している。

基本はみな同じで人間は基本的に同じ構造をしている。当然、生活動作も同じである。とつすると基本の元になる動作を現わす語も同じ共通の動作になる。当然漢語英語日本語を問わず、共通の動作には共通の語が出来た。それは似たような語になるだろう。人間の発声機関はみな同じだ。当然意味も発音も似たようになるし、似てくるだろう。その通り五大母音はみな同じアイウエオだ。

そこで各言語間で発音が同じで意味も同じ動作も同じで意味も同じならいいが、意味が同じだがまったく違う発音の語や、同じ発音とか、似た発音だが意味が違う紛らわしい時に、どういうふうに扱つか。知らない言語にあつた時にどういうふうに、コンタクトするか。この時に表田の比の使い方が出てくる。各言語ではそれぞれ特徴在る使い方が模索され文化文明を成している。

それは、表田の最高の比の和を以て尊しとなす仕組みだ。逆裏対偶命題のことなのだ。日本語以外の各言語では最初に行列表桁に注目する。相手と自分の命題がどうなっている

かを確かめる。關係をはつきりさせる。はつきりしなければ交渉しない。現在の日本語には、はつきりさせる習慣が無くなっている。

英語でザ 丸丸と言えは丸丸そのものというふうになる。それに分類するのだ。命題が出来る。誠はアザの比なのだ。一対になつていなければならない。ないでないとあるであるでるが比になつていなければならない。そしてそれは日本語でも分類出来る。

比のアとザだ。本来はアとザは比になる。一対として使うのだ。ア ペンとザ ペンの違いとはペンであるとペンでないの違いだ。天を指さしア ロー、ザ ハイで、地を指さしザ ロー、ア ハイだ。比を表田や対偶で見れば一目瞭然。田圃の田の字の形を描いている。この分類が決め手だ。

これらを組み合わせて出来る。田圃の田の字の形だ。田の字はマス目が四つで出ている。そこで三つのマスが分かれば四つ目のマスが分かる。そこでハイやローの前に付くアとザの組み合わせは推論可能だ。

命題が「真」なら「真」の「真」は、その対偶も、必ず「真」である。命題の逆の裏の対偶の關係が成り立つから、命題の「真」の關係は命題が「真」なら対偶も必ず「真」である。命題があれば裏と逆から対偶の「真」を予測できる。命題と逆と裏の三つのアとザの關係が分かれば対偶は推論できる。それは「真」のザ ハイの対偶はア ローで「真」のア ハイの対偶はザ ローになる。

英語の哲理は分り切つてこのことを再認識すること重要だ。誰にでも分かるごく普通の当たり前の認識手段の構築が文化文明だ。これがアメリカの強みだ。国際外交の公用語はほとんど英語だ。何故アメリカは強い。それはこの公理を一番実践するから

だ。アメリカは人種の坩堝、宗教も民族も様々。そこで主張が多様化する。そこで鍛えられた哲理が英語だ。

インターネット時代の言霊だ。なら日本人は海外から言語を輸入して加工すればいい。アメリカの英語を広める政策とは一線を画し土着の固有の言語を再生する。各言語の固有の仮名の訓読みを模索し構築しネットで結ぶ。ストレージに記録された対偶は、世界中で共有され、誰でも自由に読み書き出来るコンテンツを作ればいい。インターネット時代に日本はそれが出来る。

アザムの間合いの取り方だ。訓読みの仮名だけの文章の発想が理解出来ねば、外来語や音読みの階層構造を解析し分類できない。なぜなら日本語は仮名の訓読みが音声基底思念であるからだ。その上に重合した外来語で出来ている。それを搔摘んで、公用語としている。国際外交の間合いの取り方はアとザだ。会合で討論しているのはアとザの間合いだ。

だが何故、英語のようなアとザの間合いの取り方をしないのか。それは発想そのものがないからだ。英語のように公的に認められた、アとザのフィルターを使い、発表するような習慣がないからだ。日本人は公に主張しないし、考えても黙つていてなにも言わないことが多い。それはアとザのように討論する上で公的に認められた外交の哲理を知らないからだ。本来ならば公の席で自分たちの正直はこうだがあんなの正直はどうかねと言つて間合いに参加することが正直だが、三五教は国祖以来この間合いに参加したことがない。仮名の構築が外交を成す。それは宿命を背負った各代表が己が自国語同士の歴史を紐解きそこで行詰つた仮名の訓読みを再構築する道場だ。当然豊富な仮名の訓読みを持つたほうが優位に立つ。そこで各国は個性在る独自の文化文明つまり仮名を切磋琢磨する。その

中で圧倒したのが英語だ。英語の本場アメリカではどのようにして仮名を大切にして進化したか。これは三五教の日本語との対比で見ると見事に浮かび上がる。お筆先を粗末にする今の三五教がどれほど仮名を粗末にしているか浮かんでくる。

### 表田のアザムとの関連

言葉を行動に換え行動を言葉に換えるのが表田の比だ。双方向で通信交通するのが田圃の田の字の形だ。例えば物事の本質を考える時に単純明快が必要で複雑怪奇は要らない。初めから単純明快や複雑怪奇に分かれていない。試行錯誤が行われる。そこで単純怪奇と複雑明快なんかが出てくる。

これはスペルだ。スペルは、表田の比の和の使い方を前提とし組み合わせて必要選択と不要排除をシミュレートする。スペルはバラモン教やウラル教の奥義だ。ここぞというスペルが決まればスペル実現のためにアクションを起こす、それをスペクターという。本来スペクターは田圃の田の字の形を描く外回りが正解だ。それは三五教の奥義であるが奥義まで達した人は少ない。

分類する過程で未知の何かが必ず出てくる。亜米利加人は日本人に、正直とは日本語で何というのかと思いだんな素晴らしい言葉が返ってくるか期待して、日本人にハブってなにと聞く。それを聞いた日本人は沖縄にいるスネークを連想し、このアメリカン、いきなりけつたいな質問しよる、アメリカじゃ、初対面の人間に蛇、知ってるかと思ふ、なに、波布。それは蛇だという。

それを聞いた亜米利加人が吃驚。なに日本人はハブをヘビーと答えるのかと思うから、じゃー、ヘビーはなにと聞くと日本人は、なに蛇それはスネークだと答える。亜米利加人は、ぶつ飛んでハブもヘビーもスネークと答えるのかと仰反る。

これは各言語の仮名の訓読みが基本的に似ているから生じる誤解だ。そこで表田の比が重要な役割を果たす。

ジャパニーズ波布はイングリッシユスネーク、

ジャパニーズ蛇はイングリッシユスネーク、

イングリッシユハブはジャパニーズなに、

イングリッシユヘビーはジャパニーズなに、

というふうになる。

誤解を解くことだ。分類の過程でこういったことが起こる。そこで日本人は亜米利加人に、イングリッシユハブは英語ではどういうふうに使うのかと聞く。亜米利加人は、それは素晴らしいとか、旨い酒だ、とかいう時に使う。決して悪い意味はない。悪い意味はイングリッシユヘビーだ。ハブとヘビーは一对で常に善し悪しの比になっている。スネークの意味はヘビーにあるが、ハブにはない。英語はスネークにハブという名を付けることは決してないと答える。

本来なら日本人は、そりやー、ハブは、省みる省く侘び寂び歌舞伎の語源の「傾く」だな、ヘビーは、その反対の、へ無頼我が在るか、そのままの発音の通り、蛇かなんだなと答えるはずだ。亜米利加人に、そうか省みるか、ハブが省くで省みる。ハブ波布や、ヘビー蛇が似ているから紛らわしいなと、認識させねばならないはずだ。

整理せいりして見みよう。

ザ ジヤパニーズ 波布はぶ イコール、

ザ イングリッシュ スネーク、

ア イングリッシュ ハブ。

ザ イングリッシュ ハブ イコール、

ザ ジヤパニーズ 省かえりみる、省はぶく、傾かぶく、侘わび、寂さび、

ア ジヤパニーズ 波布はぶ。

ザ ジヤパニーズ 蛇へび イコール、

ザ イングリッシュ スネーク、

ザ イングリッシュ ヘビー。

ザ イングリッシュ ヘビー イコール、

ザ ジヤパニーズ へ無頼むらい我が在ある、

ザ ジヤパニーズ 蛇へび。

と言いえばいい。

あるかもしれないとか、ないかもしれないというが、あるかもしれない、ないかもしれない、あると言いわない。あるかもしれない、ないかもしれないは、意味いみが分わかるが、ないかもしれない、あるかもしれない、なぜ意味いみが分わからないのか。このあるないの持つ差さがアザムだ。

このないは、あるか、ないか、分わからないのないだ。分わからない、それは未発見みはっけんの未知みちだ。そこには分わかるがあるかもしれないし、ないかもしれない。そこで効率こうりつよく分わかるだけ

を濾過する。それは完全無欠と誤差がなければよい。

しれないのには有無を超えた無のないであり「ム」は必ず現れるである。だが有無を超えた有とは言わないように、しれあるとは言わない。しれあるは在る無いを超えて分かるが濃し出せない。だから聞いても分からないのだ。

微生物の働きの発酵と腐敗は生物学からみれば差はない。便宜上、人の役に立つものを発酵と言ひ役に立たなければ腐敗というだけだ。善悪正邪は人間の判断であり善悪正邪もあらゆるすべてから見ればあらゆるすべてで差はない。ただ人間に役立つものを正善といひ、役に立たないと便宜上、邪悪という。

あらゆるすべてには、あらゆるすべての鑄型が在る。それが完全無欠だ。ということは人間の認識や判断を超えた善悪正邪の鑄型が在り、その鑄型に合致すれば善悪正邪という区別がない。合法違法というような人間の不完全な判断ではなく森羅万象が醸す善悪が在るのだ。完全無欠が醸すなら何をしてよいということだ。

それは未発見の未知に完全に対応することだ。あらゆるすべてにはあらゆるすべてが在り当然未発見の未知も在るし、その未発見の未知に完全に対応することも出来る。場には問題もあるが解答も在るのだ。それなら行詰ったときに乗り越えられる。あらゆるすべてがすべてだ。合法か違法かを決めるとき場と誤差がないかどうか問題だ。問題を解決するのに場が見えるかどうかの問題だ。

真善美愛とは、場のことだ。完全無欠とは莊嚴で美しいのだ。あの美しい宇宙を見よ。天体の運行は完璧であり銀河は莊嚴に輝きを放つ。大宇宙では至善至美至愛である。優しいとは麗しいとかは場と誤差がない。それだけだ。正しいことは場からでる。

では世のため人のために、公共の福祉の実現のために一心不乱に努力すれば、完全との誤差がなくなり必ず成功するの。そうではない。場にあるのか無いのかだ。すばらしい理想を掲げても表田にしても、場になれば成功しない。例えば法律。どこの国の憲法もそれはすばらしい理想を掲げている。だが実際には法律が理想社会の実現を成功させたことはない。いくら表田を練り上げてても表田を成せる場の物理の裏づけが無ければ成功しないからだ。

だから法律で立派でも実際には、完全無欠が出てこない。合法や違法、善悪の倫理観、損得勘定と言ったものはみな人間が決めたものだ。実際には自然は自然自身が決める。すべてはすべて自身が決める。それゆえに場は完全だ。人間が決めたことでは、自然は動かない。いくら表田を推敲しても自然自身の決定は変えられない。法律で自然を変えられないのだ。宗教や科学で自然を支配できない。表現上には存在しない表田をいくら推敲しても実現しない。漫画やテレビで表現してもそれは実際に無い。磯野家や野比家の現住所を誰にも特定できない。観念上には存在しないものを表田で実現できない。地球人が作り出した物を見ると、観念上にはかない物に自然の決定を無視し自然を無理にあわせようとしていたり、嘘をついて嘘を濾過しありもしない誠を集め蓄積し現実化しようとする無理なやり方だ。

無い袖は振れぬ

物理の裏づけの無い表田はどんなに立派でもそれを使えば嘘になる。そのため出来もし

ない嘘から出た誠を実現しようとする。そこで自然や人間に無理をさせる。人間の決めた規格に合わせようとする。当然、規格を支配するものが支配者となり、逆らうものを罰し排除する。支配者は富と権力を独占する。下の者は自ら支配者の地位に就かんと下克上が起る。

無いを在るにするという表田は、そもそもあらゆるすべての共鳴だ。真理との共鳴は平和原理だ。平和原理は誠から出た誠であり場の裏付けの在る嘘から出た誠であつて誠から出た嘘ではない。場の裏付けの無い嘘から出た誠ではない。場に在れば出てくるから見てわかる。当然みなに素晴らしいがわかるから和を以て尊しとなる平和原理になる。

問題は戦争原理が自ら悪を生み出しながら善に負債を押しつけ、しかも場の裏付けの無い嘘から出た誠であることだ。例えば電球が付く消えるという状態があるか。いいやありやしない。明るい暗いが成り立つか。成り立たない。明るいのは明るい。暗いのは暗い。嘘と誠は両立しないことだ。因果律のグチャグチャの戦争原理は幻だ。実際にある平和原理は表田の単純明快である。

観念上にしかない表田を用いれば必ず嘘から出た誠になる。だが物理の裏づけが無いから、そこで一致団結してことにあたる。しかし実現のために自然も人類も無理をしられ、そこになる。それが不平不満を呼び戦乱が起る。争いが日常化し戦って勝負を決することになる。

法律や国家や企業は立派な大義を掲げ、お金や資本の効能をといて、豊かな社会の実現をめざし社会が一致団結しても人間や自然は無駄を強いられるだけだ。裁判で豊かな富や名声を持つ者は優秀な弁護士をたくさん雇い法律を自在に駆使する。資本は、弱肉強食。

法律やお金は強い者に有利だ。そこで表向きは立派な理念を掲げて、裏では、弱肉強食。強い者の隠れ蓑に理想が使われる。

米国の大統領が人民の人民による人民のための政治というようにエコノミーもデモクラシーもキャピリズムもカミーズムも人間の決定が優先される。しかし人間の決定は、人間自身を決定できない。自然は自然自身を自然に決定するのが自然だ。

自然は自然自身を決定できる。あらゆるすべてはあらゆるすべて自身をあらゆるすべてできる。人間の決定を自然は超える。人間の決定は自然を扱えない。しかし自然は人間の決定をも含む。人間が決定しても自然自身を含まないが自然は人間を包含できる。自然の自然による自然のためは人間を含むあらゆるすべてなのだ。

自分で自分を決定できる自然は完全である。完全なるが故に人間を完成できる。人間が不完全未完成でも自然は完全でありえる。人間の決定で解決できなくても自然には解決できる。これは人間が自然を優先すればすべて解決、無限を見ればすべて解決するということだ。だから表田が真実との共鳴であるかないかだ。自然の決定が自分の決定であるとすれば、場に根ざした決定なら真理との共鳴が起こる。ところが理屈をこね観念上にしか存在しない表田を持ちだすと人間の決定であり自然の決定ではない。

自然の御意向を考えなければ自分にはなれない。自分自分といつても所詮は自然の一部なのだ。自分自身とは自然の一部であり、あらゆるすべてには自分も含まれるから、自分とは自然であると考えなければ成り立たない。自分とすべては繋がるということだ。それは真実との共鳴の裏づけが無ければならない。つまり正直は物理的に検出できる。それが表田の真実だ。その表田が実現するかしないかは真理と共鳴が出来るかどうかだ。素晴ら

しい表田は自然の決定が自分の決定であるとした時に機能する。

右足をあげ右足が地につく前に左足をあげる。左足が地につく前に右足をあげる。そうすれば空中浮遊が出来る。空を飛べる。これは理論上には無い。実際にはそんなことしたらジタバタするだけだ。これは漫画のように人間が出来ると決めただけのことだ。しかしいくら信じ念じても出来はしない。

三五教の論理、嘘から出た誠の悪因善果の表田。これは実在しない。左右の足は交互に上げ下げを繰り返す。上げ足の次に下げ足がくる。上げ足の後に、上げ足がくることは無い。悪因を押せば悪果だ。表田から善因悪果も有り得るはずだ。これは悪いこととしてないのに無実の罪で罰せられることだ。三五教は実際に有能な部下をくだらない過失で罰している。その一方で悪い奴をのさばらす。それは不完全だからで完成すればそれを超えるという。

だから、それを越えるのが嘘から出た誠の凄いとこだというのだ。じゃー、どうやってするかと問えば、詭弁の表田と情報操作を使う。そうだ、確かに出来ない。だから、不可能を可能にしてこそ真の奇跡というのだというのだ。だが、実際には詭弁を使うだけだ。成り立たない公理だったんだ。成り立たない公理を証明するために無駄を強いられ、不平不満が戦争原理になり、キャピロリズムにもカミーズにもエコノミーにもデモクラシーにもなったんだ。はじめから出来なかったんだ。

表田を見て出来ないことが分かる。因果応報を人間の理屈で作り変えられるはずがないのだ。それをしようとするから三五教は自然に逆らうことが天則遵守になる。それをするのが三五教の天職という。それでは三五教は破壊魔だ。何をいう、真正正銘の奇跡を起こ

そうとがんばっているのにと三五教。ところが三五教の嘘から出た誠にはアザムがない。表田を使いどんな立派な大義を掲げてもあらゆるのになければすべてにない。有限で人間が決めても結局自然の支えがなければ人間が無理して支えるしかなくなる。どんなに立派な理想でもアザムでなければ戦争原理になるのだ。戦争原理をどうしたって平和原理にはならない。苦しめておきながら喜ばせるという理想はやめるべきだ。

無い袖は振れぬの善因善果、悪因悪果は、

戦争原理↓戦争原理  
平和原理↓平和原理

である。当然、善因を押せば善果で、悪因なら悪果だ。因果応報であり正直すればただ

け報われる。

嘘から出た誠は、

戦争原理↓平和原理  
平和原理↓平和原理

である。これは確かにもつともだ。ところがそれは不完全で悪因を押しても善果になるようではなければいけないというのだ。なにをしてもすべて善になるという。

だが表田で見ると、何をしても悪果になってしまうことがありえる。

戦争原理↓戦争原理  
平和原理↓戦争原理

の組み合わせもある。この表田を考慮に入れていないのが三五教だ。三五教は、偉大なる大神ならこの障壁を超えられるというのだ。

だが未だに大神はこの障壁を越えられない。越える目処さえ立たない。それは出来やしないからだ。善因を押して悪果になる貧乏籤を引かされる哀れな民が続出する。哀れな民を救わんとしてまた出来ない表田を作る。その繰り返し。



行動の奥義

## 表田のエリア88

靈界物語には、三五教の宣伝使が宣伝歌を歌いながら、外回りをしていたと書かれている。三五教の宣伝使は、靈縛など神法導術が使えたことが書かれている。何故、三五教の宣伝使は神通力が達者であつたのか。それは靈や座を練磨する行法が息づいていたからである。宣伝使は各地の八王八頭を巡る。何故、巡るのか。それは八王八頭が八尋殿であり世界中のピラミッドをつないで行くのが三五教の宣伝使であるからだ。

三五教の奥義はこの八尋殿を繋ぐ外回りにある。ウラル教やバラモン教が言葉の使い方の表田のアザムで擻んでいたように、三五教は靈や座を鍛える行動の仕方、擻んでいた。それは表田のエリア88である。田圃の田の字を描く外回りである。

ピラミッドつまり八尋殿には本体や鏡石や太陽石や方位石があつて、その他にミトロカエシやカタパルトがあつて、ドルメンやメンヒルがある。そこを田の字を描く外回りをする。地形の理解や地名の理由に基づいて水路で切れないように田の字を描いていた。そしてそのエリア88を連結し拡大していった。

当然、海洋で隔てられたりした陸地同士は直接繋がられない。しかし、八尋殿を使い、片方の八尋殿で8を描き片方の八尋殿で8の字を描き合体させて田の字にした。こうして離れた陸地を繋いでいった。

それが氣を練ることである。氣や靈とか経絡秘孔や座を活性化する確実な行法は表田のエリア88の外回りである。後世の宗教家はこの伝統を失い超能力が使えない。三五教はこの伝統を今に受け継ぎ、三五教はこの伝統のおかげで氣を練り超能力を発揮できた。

三、五教は表田のエリア88であるが表田のアザムが至らない。ウラル教やバラモン教は表田のアザムであるが表田のエリア88が至らない。一長一短である。それなら二度目の天之岩戸開きこそは表田のアザムとエリア88に至ることである。

気を練るには田圃の田の字を描く外回りが肝要である。宣伝使は各地の八尋殿のご神水を汲んで飲んでエリア88して淨身鎮魂法をしていた。そして八尋殿で汲んだ御手洗をイヤシロチの池や井戸に垂らしては淨身鎮魂法をしていた。

そして国祖に、いついづどこでエリア88をした、淨身鎮魂法をした、ご神水を御手洗したと、報告していた。宣伝使は各地の実情を国祖に報告するとともに、気を練ることもしていた。それで胆力を鍛え丹田を鍛えた。

田圃の田の字を描く外回りはイヤシロチを作る。ケカレチを分解しイヤシロチ化する。当然、オカルトは田の字を描く外回りが嫌い。妖幻坊はアザムやエリア88をぶつ潰そうと悪巧みする。アザムやエリア88を批判する者は兇党界だ。世の中には、アザムやエリア88を目之敵にする兇党界もいる。そこで冷静に相手が表田を正直しているのか、いなかを省みれば相手がカルトかカルテかが見えてくる。

いくら超能力の行を積んでも、座禅を組んで瞑想しても、滝に打たれ山籠りしても、氣や靈が使えるようにはならないだろう。氣と経絡秘孔や靈と座を鍛える以外に超能力を使う方法はない。ここを見失ったから有史以降では超能力が失われた。だから、伝説と神話が理解できない。新石器時代では当たり前であった精神を鍛え肉体を練磨する必須は表田のアザムとエリア88である。

## 火水の御用

大本教には元伊勢の水の御用と出雲の火の御用というのがある。国祖は王仁や出口直たちに、元伊勢のご神水を汲んで聖地に垂らせ、出雲大社のご神火を大本教の聖地で灯せといた。伊勢神宮は最初、皇居に祭られていた天照大御神を倭姫が各地を旅し伊勢の地に鎮座して出来た。近畿にはその旅をした時に鎮座した元伊勢がたくさんある。その中の一つの神社のご神水を汲んで大本教の聖地に垂らしたのである。出雲の火の御用というのは出雲大社のご神火をもらい百日の間、灯すというものだ。

ここには三五教の奥義が出てくる。お筆先で神が思うていたよりもあまりに酷い曇りようつといっている。聖地、綾部と亀岡は出口直と王仁が現れるまでひどく汚れていた。そこで最初に綾部と亀岡の大掃除大洗濯をする。それがこの火水の御用だ。

時空間の間に溜まった老廃物を吐き出し栄養を取り込むために時空間の代謝を高め循環をよくする方法である。三五教の宣伝使たるもの、この火水の御用が肝要である。綾部と亀岡を使いイヤシロチの作り方や霊と座の使い方を示した。綾部と亀岡は本来、八尋殿であるが機能していない。そこで停止した八尋殿を再稼働する必要があった。

それが火水の御用である。五十鈴の太占は、倭姫が太古神法で築いた。神の許可を得て正當な太占の流れを汲むご神水とご神火を使えば停止した座を再稼働できる。かつて神代の昔、三五教の宣伝使がご神水を汲んでその土地の太占に垂らし、元伊勢の水の御用をして浄身鎮魂法で出雲の火の御用をして国祖のお筆先の変わりに国祖に繋ぎを付けていた。だが王仁は火水の御用を広めなかった。太古からの正當な太占の流れを綾部と亀岡に引

き込んだのだから、大本教の信者たる者、正当な三五教を見習い表田のエリア88と火水の御用を修養すべしとすべきであつた。

火水の御用に霊と座の奥義がある。人間の体内では血管は常に生まれ変わっている。それは大地の経絡秘孔や座も新陳代謝するということだ。血管は切れたり詰まったりすることがあるが修復機能もある。それと同様に経絡秘孔や座も切れたり詰まったりする。血が汚れて動脈硬化を起こしたりするように、気や霊も汚れる。人体に老廃物が溜まると免疫や代謝が弱くなり病気になる。それと同様に天然自然や時空間も汚れてくると代謝や免疫が弱くなり病気になる。

ここで火水の御用を見るに、正当な太占のご神水を汲んで垂らただけである。人間の体内で血管ができるのは、体内の細胞が血管を作るからだ。同様に太占のご神水を垂らし浄身鎮魂法をするだけで霊や気が座や経絡秘孔を作ってくれる。理学的には正当な太占から流れるご神水には、座や経絡秘孔の元になる霊や気が含まれている。そのご神水を汲んで垂らし浄身鎮魂法をしないと人間は時空間に霊と座を生やす事が出来る。

そうすると細胞が血管を作るように、時空間に霊や座が発芽して座や経絡秘孔になる。人体に免疫や代謝があるから生きられる。同様に時空間も代謝や免疫をする。時空も生き物なのだ。

縄文人が八尋殿を造営し倭姫が五十鈴の太占を築いた当時でも手に入る天然素材を用いた。座は各地を繋いでいたが区画整理などで切れてしまうこともある。血管や神経は生まれ変わるように当然、霊や座も生まれ変わるから、座を作り結ぶには火水の御用で修復することが必要だ。

元<sup>もと</sup>に成<sup>な</sup>る靈<sup>ひ</sup>と淨身鎮魂法<sup>じようしんちんこんほう</sup>があれば座<sup>くら</sup>を作<sup>つく</sup>ることが出<sup>で</sup>来る。これだけで靈<sup>ひ</sup>と座<sup>くら</sup>を修復<sup>しゅうふく</sup>することが出<sup>で</sup>来る。倭姫<sup>やまとひめ</sup>が太古神法<sup>たいこしんほう</sup>を継承<sup>けいしょう</sup>して五十鈴<sup>いすず</sup>の太占<sup>ふとまに</sup>を築<sup>きず</sup>く時に特殊<sup>とくしゅ</sup>な道具<sup>どうぐ</sup>を使<sup>つか</sup>つたのではない。地球<sup>ちきゅう</sup>にあるもので手<sup>て</sup>に入<sup>はい</sup>るものだ。縄文<sup>じようもん</sup>の民<sup>たみ</sup>は天然自然<sup>てんぜんしぜん</sup>の産物<sup>さんぶつ</sup>を使<sup>つか</sup>い八尋殿<sup>やひろどの</sup>を造営<sup>ぞうえい</sup>した。天然自然<sup>てんぜんしぜん</sup>の素材<sup>そざい</sup>で靈<sup>ひ</sup>と座<sup>くら</sup>を活性化<sup>かっせいか</sup>できる。元<sup>もと</sup>に成<sup>な</sup>る太占<sup>ふとまに</sup>があればそこから太占<sup>ふとまに</sup>を拡大<sup>かくだい</sup>して行<sup>い</sup>くことが出<sup>で</sup>来る。

## 火水<sup>かみ</sup>の御用<sup>ごよう</sup>のエリア88<sup>はちじゅうはち</sup>

田圃<sup>たんぼ</sup>の田<sup>た</sup>の字<sup>じ</sup>を描<sup>えが</sup>くエリア88<sup>はちじゅうはち</sup>はカルト成分<sup>せいぶん</sup>を分解<sup>ぶんかい</sup>しカルテ成分<sup>せいぶん</sup>を合成<sup>ごうせい</sup>する。チャレンジ<sup>チャレンジ</sup>には試行錯誤<sup>しこうさくご</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>だが試行錯誤<sup>しこうさくご</sup>が悪<sup>あく</sup>に落<sup>お</sup>ちては困<sup>こま</sup>る。チャレンジ<sup>チャレンジ</sup>の鮮度<sup>せんど</sup>を保<sup>たも</sup>ち、悪化<sup>あくか</sup>を防<sup>おせ</sup>ぎ善化<sup>ぜんか</sup>を招<sup>まね</sup>く秘訣<sup>ひけつ</sup>は表田<sup>ひょうた</sup>のアザムとエリア88<sup>はちじゅうはち</sup>である。

言葉<sup>ことば</sup>と行動<sup>こうどう</sup>で悪化<sup>あくか</sup>を防<sup>おせ</sup>ぎ善化<sup>ぜんか</sup>を醸<sup>か</sup>す。イヤシロチ<sup>イヤシロチ</sup>を作<sup>つく</sup>りケカレチ<sup>ケカレチ</sup>を分解<sup>ぶんかい</sup>する。氣<sup>き</sup>を練<sup>ね</sup>るには功德<sup>くどく</sup>を積<sup>つ</sup>むことである。正直<sup>しやうじき</sup>以外<sup>いがい</sup>に氣<sup>き</sup>を練<sup>ね</sup>る方法<sup>はうほう</sup>はない。いくら滝<sup>たき</sup>に打<sup>う</sup>たれても瞑想<sup>めいそう</sup>に耽<sup>ふけ</sup>つても基本的<sup>きほんてき</sup>に奇蹟<sup>きせき</sup>は起<sup>お</sup>こせない。超能力<sup>ちやうりき</sup>の発動<sup>はつどう</sup>は、正直<sup>しやうじき</sup>の発動<sup>はつどう</sup>にして公共<sup>こうきやう</sup>の福祉<sup>ふくし</sup>の実現<sup>じつげん</sup>である。

宣伝歌<sup>せんでんか</sup>を歌<sup>うた</sup>いながら各地<sup>かくち</sup>の八王<sup>やつおう</sup>八頭<sup>やつとう</sup>を田圃<sup>たんぼ</sup>の田<sup>た</sup>の字<sup>じ</sup>を描<sup>えが</sup>く外回り<sup>そとまわ</sup>りで巡<sup>めぐ</sup>り、火水<sup>かみ</sup>の御用<sup>ごよう</sup>で靈<sup>ひ</sup>と座<sup>くら</sup>を作<sup>つく</sup>り淨身鎮魂法<sup>じようしんちんこんほう</sup>をして、表田<sup>ひょうた</sup>のエリア88<sup>はちじゅうはち</sup>で区画整理<sup>くわかくせいり</sup>を繋<sup>つな</sup>ぎ、広大<sup>こうだい</sup>なイヤシロチ<sup>イヤシロチ</sup>を作<sup>つく</sup>り、氣<sup>き</sup>を練<sup>ね</sup>り胆力<sup>たんりき</sup>を鍛<sup>きた</sup>え精神<sup>せいしん</sup>を鍛<sup>きた</sup>え超能力<sup>ちやうりき</sup>を身<sup>み</sup>に付<sup>つ</sup>けた。神代<sup>かみよ</sup>の昔<sup>むかし</sup>、神通力<sup>じんつうりき</sup>が皆<sup>みな</sup>に使<sup>つか</sup>えた理由<sup>りゆう</sup>は、表田<sup>ひょうた</sup>の仕組<sup>しく</sup>みがあつたからだ。特に三五教<sup>さんごきやう</sup>は外回り<sup>そとまわ</sup>りのエリア88<sup>はちじゅうはち</sup>が優<sup>すぐ</sup>れていた。そこで宣伝使<sup>せんでんし</sup>は皆<sup>みな</sup>、各地<sup>かくち</sup>の神山<sup>しんさん</sup>靈山<sup>れいざん</sup>の八尋殿<sup>やひろどの</sup>を巡<sup>めぐ</sup>り、三五教<sup>さんごきやう</sup>の元締<sup>もとぢ</sup>めに大成奉還<sup>たいせいほうかん</sup>の繋<sup>つな</sup>

ぎをつけ、この火水の御用のエリア88をしていた。

火水の御用のエリア88は、カルト成分を分解し、カルテ成分を合成する。環境を善化し命を潤す。いいことだらけである。それが三五教の奥義である。

元になる霊があれば、元になる霊から座を造れる。元になる座があれば、元になる座から霊を造ることが出来る。火水の御用のエリア88は、人間が行う。火水の御用のエリア88を行うと、霊と座が作用して大地に霊と座を産み出すのだから、その火水の御用のエリア88を行う人間が、天然自然を使い大地に霊と座を立てるようになる。当然、その人間の霊と座も、大地の霊と座も活性化する。

三五教は気を練ることに掛けては余念がない。実際に霊や座を練り上げる事とは火水の御用のエリア88である。縄文の民はみな、火水の御用のエリア88をして広大なイヤシロチを造り、豊かに暮らしていた。

座や経絡秘孔は切れる時がある。切ると祟りがあるという。切ると時空間の循環が滞り代謝系や免疫系が弱体化し時空間病原体が増殖し時空間が病気になるから、周囲の環境が悪化し災いが起こり不幸になるからだ。しかし、火水の御用のエリア88を行えば霊や座は甦る。

綾部と亀岡は王仁と直が現れるまで霊と座が切れていて時空間病原菌だらけであった。しかし火水の御用を行い霊と座が復活し時空間の代謝や免疫が健康になりイヤシロチになった。三五教は、火水の御用のエリア88を行い全地球をイヤシロチ化するのが三五教の本来の役目である。いつの時代でも火水の御用のエリア88を行うものが三五教である。

伝説と神話の超能力は火水の御用のエリア88の超能力である。だがその伝説が失われ

形式化形骸化する。そこで伝説と神話が生まれる。やがて伝統は消えてなくなり、伝説と神話を古代人の空想であり小説みたいな物だというようになった。

それは火水の御用のエリア88を行えば、伝説と神話のピラミッド トリスメギストスやサイ アンド レイや、アルケミー テオクラシーが使えるということだ。霊や座は、人体にもあるが大地にも在る。人間が行う火水の御用のエリア88は、大地や人体の気や経絡秘孔や霊や座を両方とも一度に鍛える。人体の練磨は大地の練磨であり、大地の練磨は人体の練磨である。

## 当時の生活

宣伝使は宣伝歌を歌いながら布教旅を続ける。宣伝使が活躍した場所は当時の八王八頭が中心である。宣伝使は布教だけが目的ではない。今で云う導士のように神法導術を極める修練を積んでいた。それは宣伝使は幾多の危機を越え胆力を鍛え、宣伝歌で身を清め、布教旅で各地の聖地を氣を練るために田の字に巡る。

聖地をロードマップでつなぐイヤシロチをなすことは三五教徒の肝要である。三五教の宣伝使は八王八頭を巡り八王八頭を結んでいた。

八王八頭は千葉県の房総半島の久留里線の上総龜山の三石山観音寺の巨石のようになっていた。二つの巨石を円を描き巨石と巨石の間を通ってアラビア数字の8を描くように歩く。漢数字の八はアラビア数字の8である。八王八頭は8と8を結ぶことからきていた。あつちの巨石で8を描きこつちの巨石で8を描く。二つの八王八頭を合体させる。各大陸

の置かれた八王八頭を巡り世界中を結んでいった。

こうしてジグソウパズルをはめ込んでいくように、ロードマップ世界地図を作り上げていった。この田圃の田の字を描く外回りが宇宙文明の奥義である。地球が宇宙に進化するために絶対に必須である。地形の理解と地名の理由に基づく限りなく行政界に近い田圃の田の字を描くロードマップを繋げていく外回りのことだ。ただし、地続きである必要が在る。海川運河水路などを横切っては行けない。水路にかかる橋やトンネルは避ける。小川を跨いだりしてはいけない。

だが、海を隔てた大陸同士は地続きではない。ロードマップはどうする。片側の地でその二つの巨石の間を巡り8を描く。もう片方の地でも巨石を巡り8を描く。二つを合体して田圃の田の字にする。

こうして気を練る。ロードマップを描かない者は道を極められない。田圃の田の字は、万芸の基礎。かつての賢者明哲が歩んだロードマップが廃れてから人類の荒廃が始まる。かつて古の賢者明哲が道を極められたのはこのロードマップのおかげだ。

一般に遠隔透視にしる未来予知や過去透視や瞬間移動やイメージの物体化にしる神通力とか超能力とかいうのは時空間の物理学である。それは時空間を最適化するロードマップを描かねば極められない。時空を経由して行うには田んぼの田の字を描く外回りが必須。生き物が持つ、取り分け人間が持っている時空との交換能力はロードマップにより活性化。活性化するなければ修行を積んでも効果が無い。ロードマップが当たり前だった時代では、皆、天才の賢者明哲ばかりであった。

地形や地名には田の字の量子循環が反映するから、そこにエリア88のロードマップの

成否がある。なんでもかんでもエリア88のロードマップを構築すればいいのではない。その塩梅が感受性だ。どういうエリア88を描くのかは、その人の値打ちを決める。それが時空の原型の容量だ。アマの感受性はエリア88の感性でありそれは天賦の時空の容量だ。

気とか霊は、呼吸と同じで吸ったり吐いたりする。吸いっぱなしや吐きっぱなしではだめ。キヤツチボールをする。気合いを入れるとか、気を練る、霊を受けるは気や霊そのものがなければならぬ。

杵と臼だけで餅米がなければ餅が付けないのと同じだ。気や霊そのものを活性化するのでなければ練ることも受けることも出来ない。霊を練るには霊を増大するには座をよくするしかない。それがエリア88のロードマップである。

現代人が古代人の空想の産物でオーバーに表現したとか、今というテレビの時代劇の水戸黄門や暴れん坊將軍や講談や落語のように作りだされた話だと考えられていた、伝説や神話に出てくるものも、霊界物語や古史古伝の超文明も実は宇宙文明と共通の田の形が起す効能を活用したに過ぎない。現代の地球人の多くが田の形の効能を見誤っているから絢爛たる伝説や神話を見誤る。

霊界物語になっっているから空理空論が横行する。実在が無いから事実根ざしていないからだ。古代で単純明快に田の形の効能に素直であったころでは、世界三大宗教の開祖ができたことは皆が出来た。空海や役行者が出来たことは標準的な縄文人には当たり前であり出来ないほうが珍しかった。

エリア88のロードマップが当たり前だったころは、皆、気や霊が強かった。田の字の

量子循環の流れを増大させるのが当たり前でロードマップを破壊する奴はいない。田んぼの字を破壊するものは三五教ではない。だがこれほど重要であるが故に隠蔽された。三五教自身が三五教を破壊した。それは八十一巻の靈界物語と百二十巻の宇宙物語を並べて見れば一目瞭然。

## ヒヒロカネとエリア 88

天祥地瑞の時代では、古史古伝のいう、八尋殿とヒヒロカネの時代であった。それが霊主体従の時代に八王八頭と神宝にされた。八王八頭は八尋殿を三五教に都合の良いように改造したものだ。八尋殿を継承し発展した形態ではない。その証拠に本来の性能である時空間との共鳴機能がない。三五教は三五教の支配を確立するために自由行動の本質つまり自分自身に由来する行動を隠蔽する。その結果、八尋殿の時空間免疫機構は低下する。それが霊主体従から山河草木の時代だ。

八尋殿は本来ヒヒロカネの生産プラントである。ヒヒロカネはどんな金属元素からでも作り出すことが出来る。そしてヒヒロカネはイヤシロチで作られる。イヤシロチを作るには区画整理である。田圃の田の字の形にロードマップを作るとイヤシロチ化するのだ。ロードマップを広げていけば、それだけ良質のイヤシロチを作れる。

天祥地瑞や縄文時代の人人は八尋殿を造営しヒヒロカネを生産していた。当時の人人は区画整理の中心に八尋殿を築いた。造営された八尋殿は共鳴の中心でありそこは噴出口であり吸込口であった。区画整理はマザーボードの基盤と一緒に様々な機能がある。

時空を循環する量子は田圃の田の字を描く。宇宙に遍く量子の縮図と地球の表田は同期する。それがイヤシロチである。量子的な循環で起動するヒヒイロカネ半導体で出来た、草薙の剣で出来た素子で出来たイヤシロチコンピュータが八尋殿である。

霊界物語の時代、人人は田圃の田の字の区画整理にせいをだしイヤシロチ作りにせいをだしていた。本来、時空を循環する量子の送受信がヒヒイロカネで出来た素子で出来た田の字のイヤシロチマザーボードで出来た八尋殿なら時空間免疫システムは衰退しないはずだ。だが霊主体従から山河草木の時代では明らかに時空間免疫システムは衰退している。これは三五教が共鳴とは対極の摩擦であるからだ。

摩擦が共鳴を遮断しないなら問題はない。三五教はミロクの世を實現できたはずだ。だが実際は共鳴は臨界に達しない。それは地球全体を田の字の区画整理で包めなかったということだ。惑星全域を八尋殿化出来れば、その惑星を構成するすべては時空間共鳴臨界に達する。それは丁度、顕世で経験を積んだ泥玉の惑星が、隠世という海に辿り着き、波にさらわれて、溶けて、海と一体化するように似ている。

そうすると顕世の経験は隠世の経験と一体化し、両者に差はなくなる。隠世と誤差がない、それが本来の進化である。隠世と顕世の送受信は、共鳴で起こるから、隠世と顕世が同じであるとき進化が起こる。顕世が隠世に解けるにはイヤシロチの田圃の田の字のロードマップが必須だ。

それは田の字であるのだから表田の使い方である。当然、ロードマップは、エリアを田の字に区画整理する表田のエリア88である。それがうまくいかなかったことが霊界物語になったのだ。言行一致というように、行動と言葉は相似する。当然、天祥地瑞の時代や

縄文時代地球では表田のアザムや表田のエリア88が当たり前であつた。

霊や座を産み出す火水の御用のエリア88を行う八尋殿はヒヒロカネの生産装置である。各地の神山霊山の八王八頭には神宝が安置される前、各地の神山霊山は八尋殿とヒヒロカネであつた。八尋殿にはミトロカエシがあり、そこでヒヒロカネが生産されていた。

ミトロカエシには火水の御用のエリア88が深く係わる。火水の御用のエリア88を行い霊と座を育てイヤシロチを作るとは八尋殿の成長でありミトロカエシの成長である。それはヒヒロカネの生産力の増大である。

当時の人は皆ヒヒロカネの生産に余念がない。当時のものはみなこのヒヒロカネで出来ていた。霊界物語の中でその時代を支えた金属である。天之鳥船も皆このヒヒロカネで出来ていた。

古代人や異星人はロードマップで氣を練り神通力を使いヒヒロカネで神殿を立てそこに住んでいた。素粒子の流れに乗る無音で超高速で宇宙にもいける乗り物を持っていた。それを霊界物語では天之鳥船とか天之磐船とか言っている。

だがそれは衰退していく。何故か。その原因は使われないからだ。三五教が八尋殿とヒヒロカネを使わせないように世論を導くからだ。時空の量子の表田の循環を摩擦で押さえる三五教の政策を繰り返すうちに自然の代謝は狂い始めた。ならば、三五教が摩擦をやめて共鳴になればいいのだが、そうはいかない。社会制度は摩擦で出来ているからだ。

摩擦を排除すれば支配を破棄しなければならない。三五教は組織だ。ところが三五教は八尋殿なら共鳴だが、実際には八王八頭で摩擦だ。摩擦では八尋殿ではない。ヒヒロカ

ネは本来、時空間共鳴での送受信機である。共鳴でないと送受信しない。摩擦ではヒビロカネの生産は出来ない。そうなると八尋殿でもないしヒビロカネでもない。霊界物語で国祖が制定した八王八頭と神宝である。それが摩天楼とお金なのだ。

霊主体従以降、沢山の支配者が現れた。上に立つものは富を蓄積し栄耀栄華のし放題。下は貧しいばかりである。それは天祥地瑞の時代の完全無欠との誤差を修正する生活技法が三五教によつて消されたために起きた。摩擦という原理である以上、三五教は、地球の誤差を修正できない。実際に出来なかつたから地球が滅びに瀕しているのだ。

三五教の宣伝使は、古来よりエリア88をロードマップしてきた。エリア88をしないものは、三五教の宣伝使ではない。エリア88に気が付かないものは三五教の信者ではない。しかし、三五教はエリア88の技法を独占し秘匿し公開しない。その結果、人人からエリア88の伝統が消えていく。そして人人から表田の奥義が消えた。為し得ないようにしておいて為せという政策は、やはり為し得なかつた。

歴史上に現れた天才たちは時空間免疫システムを衰退させる三五教の政策に矛盾を感じながら、何故、三五教がうまくいかないか分からなかつた。感じた矛盾は三五教の正当性を証明できないということだ。三五教による支配は基本的に時空の共鳴構造に一致していない摩擦だ。摩擦を貫く政策の過ちをどうやって正しいと証明する気だ。出来るわけがない。

二度目の天之岩戸開きはここをどうするかだ。時空間を健康にするか病気にするかだ。天祥地瑞に帰るなら、八王八頭をやめることだ。三五教、つまり日本が、今まで秘匿した宇宙の真実を公開し、八尋殿とヒビロカネを生産するかである。完全無欠と誤差がない

ロードマップエリア88を成し、泥玉の地球を宇宙の海に溶かせるかである。

## ヒヒロカネとミトロカエシ

八尋殿には太陽石と鏡石と方位石と本体、ドルメンやメンヒル、ヒヒロカネを産み出すミトロカエシとカタパルト、カタパルトのフィールドフォースを産み出すリアクターであるアトムロンドリングの御手洗、神示の繋ぎをつける大成奉還と、それを用い霊と座の元になるご神水を使い、霊と座を産み出し鍊磨し結合する神法の淨身鎮魂法や天津靈鉾の秘印や九字真法がある。

ミトロカエシとカタパルトでヒヒロカネは作られた。太陽石と鏡石と方位石と本体、それにドルメンやメンヒルは、ヒヒロカネで作られた。ヒヒロカネは巨石を加工するのに使われた。巨石を発泡スチロールのような軽さに出来たし、粘土のようにやわらかく出来た。ピカピカに磨いて太陽石や鏡石を作った。

ミトロカエシというのはメタンなどのガスが泥と交じり合いコロイド状になった新鮮な清水が湧き出るイヤシロチにある池や沼のことである。カタパルトは八尋殿の巨石を用い八尋殿に人間の卑近な営みを蓄積し、一点に集中させ強力なフィールドフォースを発生させる装置である。

メンヒルやドルメンを用い、火水の御用のエリア88を行いイヤシロチを拡大すると、太陽石と鏡石と方位石が活性化するとミトロカエシやカタパルトが活性化する。そうするとより良いヒヒロカネが出来た。出来たヒヒロカネを使い、さらなる八尋殿が造営さ

れていった。

人体の霊や座はネットワークを組んでいる。人体の霊と座の中樞である人体の八尋殿が在る。人体の八尋殿で重要な三つは方位石の間脳視床下部と太陽石の間脳内液と、鏡石の臍下丹田である。人間が火水の御用のエリア88を行うと人体の内部で脳内神経性物質と腸内神経性物質が相互作用する。神経が発電素子化する腸脳発電が起こる。腸脳発電状態の体内の細胞はミトロカエシ化し細胞が半導体化して人体がヒイロカネに成る。

火水の御用のエリア88で、エリア88は人体の座の中樞の脳や腸を鍛え、淨身鎮魂法は人体の座の中樞の脳や腸を鍛え、淨身鎮魂法とエリア88はダブルで腸脳を練磨する。エリア88と淨身鎮魂法は、人体の座の中樞である間脳と腸に作用する。気を練るとは、腸脳発電であり、そのためには火水の御用のエリア88が肝要である。

人類が火水の御用のエリア88を行うと人体の八尋殿の間脳視床下部と間脳内液と丹田が大地の八尋殿の太陽石や方位石や鏡石と作用する。大地のミトロカエシは池や沼として存在する。ミトロカエシの中では生命が自然発生し金属の元素転換が起こる。二つの作用をミトロカエシという。人体の中でミトロカエシを起こすとき、生命が自然発生し金属の元素転換を起こす作用が起こると、人体の八尋殿の丹田と間脳である腸と脳の神経細胞が半導体の特性を発揮し発電素子となる。

霊と座と神の関係は、霊は神霊元子で、座は八尋殿、神は人に例えられる。神霊元子と八尋殿と人の関係は、響子と写子と結子の各作用に対応する各部に例えられる。響子は、方位石と間脳視床下部、写子は太陽石と間脳内液、結子は鏡石と臍下丹田に対応する。

霊や座は、結子や写子や響子のおかげで形態を維持できる。当然、消滅したりしない。

それは形態を保つために常に情報やエネルギーを供給されているからだ。誰が供給しているのか。実は時空間だ。三つの特性を維持するために時空間と共鳴している。それならばより強力に共鳴すればそれだけ霊や座は強力に成るはずだ。

どうすれば霊や座は時空間と強力に共鳴するか。火水の御用のエリア88である。エリア88を歩き、霊と座のご神水を水源に垂らし、霊と座のご神水で淨身鎮魂法を行うことは、人体の座と大地の座の結びつきを強くする。

神経ネットワークを流れるインパルスに誤差が生じることが在る。なぜ誤差が生じるのか。人体が有限の容量しかないからだ。処理能力が有限だから容量をオーバーすると誤差が生じる。霊が座におりる時、神経を流れるインパルスに生じた誤差を腸と脳が吸収しインパルスを最適化し発電する。それは時空を伝播して八尋殿に伝わり周囲をイヤシロチ化する。

大宇宙を見よ。天然自然は完全である。實在する無限は完全無欠である。無限の過去から続くあらゆるすべての因果律は、今居る所を完全に實在させることを可能にしている。時空間と誤差がない。それは完全無欠である。無限の歴史に支えられた今居る所は、無限の可能性を無限の歴史に織り込んで未来を形作る。その因果律こそ完全無欠である。万能そのものである。

インパルスの最適化も公共の福祉も基本的人権の尊重も、霊と座の練磨も八尋殿とヒビイロカネの造営も火水の御用のエリア88も、その根底には無限の可能性を無限の歴史に織り込んでいく完全無欠の未来を作る根源的因果律に基づいている。ヒビイロカネを作るミトロカエシやカタパルトを見極めるには火水の御用のエリア88に気づくかどうかである。

る。根性いれて正直したら見るはずだ。それが三五教の奥義である。

当時の生活は、人間の卑近な営みが八尋殿の造営であり、ヒヒイロカネの生産であるという生活である。ミトロカエシやカタパルトで生産されたヒヒイロカネは、加工され使われていた。食料を作るために使われたり、製品を作るために使われた。そして、それらは人間の一举一動一語一句がヒヒイロカネを醸す生活に使われた。そして火水の御用のエリア88が生み出す燻し銀のような卑近な営みが醸す成分を、八尋殿ネットワークのアトムロンドリングが吸い上げ蓄積する。

循環するヒヒイロカネのアトムにも銀行のような出入口がある。循環したお金は銀行に集まる。そこで古いお金が新札になるように肺で酸素を取入れ二酸化炭素を吐出すように八尋殿にもヒヒイロカネもリフレシユする御手洗がある。アトムは回収され、卑近な営みが醸す成分は銭洗の御手洗に蓄積されカタパルトやミトロカエシの燃料となる。卑近な営みが醸す成分を動力源にしてヒヒイロカネができる。ヒヒイロカネのできばえは卑近な営みの善し悪しが決める。だから一所懸命、正直し悪い奴はいない。

2	2	2	
0	0	0	
1	1	1	
1	0	0	
年	年	年	
1	5	4	
月	月	月	
2	5	1	
3	日	0	
日		日	
修	修	作	
正	正	成	

後記